

Vol. **172** 2019.夏



特集  
I

《令和元年度》  
定時総会開催

特集  
II

四国支部設立

連載

頑張る会員企業訪問記  
株式会社 三協

清流感を探しに  
出かけたみぎやんか。



一般社団法人  
日本木造住宅産業協会

# CONTENTS

## 木 芽

Vol.172

夏号

令和元年(2019年)  
7月16日発行

書家・文字文化文筆家 宇佐美 志都



特集I	折々のひとひら	01
連載	新しい時代を迎え令和元年度の定時総会を開催	02
特集II	頑張る会員企業訪問記／株式会社三協(三協ハウジング)	11
連載	四国支部の設立総会を開催	15
FOCUS	リフォーム最前線／株式会社 えねい建設	18
木住協NOW	木住協加盟3社も加わり「里山住宅博inTSUKUBA2019」	21
連載	「住まいのトレンドセミナー」を開催	22
連載	木造ハウジングコーディネーター奮闘記／サーラ住宅株式会社の伊藤 優也さん	23
連載	日本の世界遺産探訪／沖縄県那覇市 首里城	25
木住協NOW	12府県と木造応急仮設住宅の建設に関する協定を締結	27
支部だより	2019年度「住宅税制改正セミナー」+「ライフプランを踏まえた住宅資金計画と最新情報」を開催(北海道支部)	30
	三陸沿岸地域(宮城県～岩手県)被災地を巡る(東北支部)	31
	「かながわ家づくりフェア2019」に支部ブースを出展(神奈川支部)	33
	神奈川県と横浜市、川崎市、相模原市との間で新たな応急仮設住宅の建設協定を締結(神奈川支部)	34
	静岡県支部会員交流会を開催～訪問交流記「ノダ編」～(静岡県支部)	35
	2019年度「住宅税制改正セミナー」+「ライフプランを踏まえた住宅資金計画と最新情報」を実施(北陸支部)	39
	第30回 定時支部総会、開催される(中部支部)	40
	第2回商品・技術勉強会を開催(中部支部)	42
	平成30年度 近畿支部定時支部総会開催(近畿支部)	43
	びわ湖大津館／蘆花浅水荘／聚心庵 歴史・芸術・商いの心を湖国に訪ねる(近畿支部)	47
	平成30年度 九州支部の定時支部総会開催(九州支部)	49
	住宅税制改正セミナー開催(九州支部)	49
木住協NOW	平成30年「低層住宅の労災発生状況調査」まとまる	50
税務談話室	工事請負契約に係る消費税の経過措置	53
	第22回作文コンクールの応募要領まとまる	55
木住協NOW	10月12日、13日に「スーパーハウジングフェアin東京」住生活月間にあわせて開催へ	56
	新支部長・新部長登場	57
	新規会員紹介	59
連載	木の匠 Historia／旧閑谷学校講堂(岡山県備前市)	60

『令』と『命』・・・「令」から生まれた「命」  
『令和』が明けた。

折々のひとひら

国民の誰もが固唾を呑んで見入った新元号発表、そして御代替りの幕開け。天皇陛下は、「三種の神器」である、鏡・勾玉・剣を継承され、新たな御代のはじまりとなった。

この度、『令和』が、『万葉集』からの出典ということで、ゆかりのある神社を詣でる人々の姿が報じられており、国民各々がそれぞれに奉祝した。この万葉集という名・・・「万世に続いて欲しい、日本の心」が編まれていると、漢字学者(故)白川静先生は説いておられた。漢字『生』は、植物が大地から生え伸びている姿で、例えるならば、人ひとりの人生。つまり一代の生。そして、漢字『生』に、枝葉が伸び生命の連続性を象形化させたものが『葉』。つまり「代々の生」。ひとりの人生から、枝が伸び、葉が茂る様子が描かれているのである。「万世に続いて欲しい」と遍さんされた和歌集であったことも、私たちは、この御代の国民として知っておきたい。

そして、『令和』は、『命』とも云える。

漢字の成り立ちを紐解くと、『令』と『命』は同じように使われていた。『令』と書いて『命』の意味としても用いられ、後に、『令』から『命』が生まれた。『令』は、礼冠を着けた神職が、膝を付けて真意を問うている姿とされ、『命』は、『令』に、神の真意を問う為に捧げる祈りの器『口(サイ)』を加えたもの。つまり、神に祈り、その啓示を待ち、そこで与えられたものを『命』というのである。

命というものは、神仏から与えられたものとされる思想は、現在にもあるが、これらの漢字の成り立ちからも、当時の心の姿が伺い知れる。そして、『和』は、和の和。偏である「禾(カ)」は、軍門に立てる標識。その軍門で神に問う器『口(サイ)』と供え、争いごとを納め、和議を行うという意味であり、最高の徳行を示す語とされている。

令和時代が、ひとり一人の命を尊び、生きざまを『和』する御代となるよう念ずる。



## 新しい時代を迎え 令和元年度の 定時総会を開催



新しい令和の時代になって初めての(一社)日本木造住宅産業協会の定時総会がさる5月30日、東京都港区元赤坂の明治記念館で開催された。定時総会では、①平成30年度事業報告に関する件、②同収支決算に関する件、③役員を選任に関する件——の3議案を審議したほか、令和元年度事業計画及び収支予算に関する報告も行い、それぞれ満場一致で原案通り承認した。冒頭、開会の挨拶に立った市川晃・会長は「昭和、平成、そして新しい令和の時代を迎えて、木住協が継続して活動を続けられるのは、会員企業の皆さまのご協力、ご尽力の賜と思っています。人生100年時代と言われている中で、木住協はそのような時

代に相応しい住宅ストックや街づくり、リフォームの推進などにしっかりと取り組んでいく必要があります」と述べ、一層の組織拡充や会員サービスの向上に積極的に取り組んでいく姿勢を強調した。定時

総会終了後には令和元年度功労者表彰式、第1回理事会、記者会見のほか、定時総会に出席した会員や来賓、関係諸団体の幹部など約400人が参加して懇親パーティーを開催した。



開会の挨拶を行う市川会長



# 会員サービス向上や支部設置、自治体との 木造応急仮設住宅建設の協定締結など重点に

午後2時から蓬莱の間で開催された定時総会には、正会員566社のうち委任状提出などを含めて364社の代表が出席した。初めに市川・会長が開会挨拶に立ち、「昨年度の新設住宅着工戸数は95万3,000戸になり、一昨年度までの減少から再び増加に転じましたが、米中の貿易戦争や10月の消費税率アップなどによって予断を許さない状況にあります」と危機感を表明し、その上で「住宅投資は景気に大きな影響を与えるもので、木住協は引き続いて(消費税率アップに伴う)反動減対策に努めていきます。循環型社会の形成に向けて良質な木造住宅の普及に取り組み、森林資源を活用した都市の木造化の推進に取り組んでいきます。さまざまな事業を通して木の特性をアピールし、会員の皆さまの事業の発展につなげていくことが木住協の使命と考えています」と決意を新たにしました。

続いて来賓の長谷川貴彦・国土交通省住宅局住宅生産課長が最近の住宅政策の動向を説明し、「消費税率アップに対する平準化策として、住宅ローン減税の期間延長や住まい給付金の拡充、次世代住宅ポイント制度の創設などを実施することができました。会員の皆さまには引き続きこれらの制度の普及をお願いいたします。地球温暖化防止のため木材利用を積極的に推進すべきという議論を続け、林野庁と連携して中高層建築物や非住宅に活用するよう努力を行っており、これも取り組みを強化させたいと考えています。また、住宅分野にはまだまだ多くの課題が残され、木住協の皆さまに引き続いてサポートをお願いいたします」と述べ、木住協と会員各社への期待を表明した。



来賓挨拶をする長谷川・住宅生産課長

## 省令準耐火の特記仕様書頒布数は 24万部を上回る

この後、市川・会長が議長に就任し、議事録署名人に阿部憲一・理事と越海興一・専務理事の両氏を指名して議案の審議に入った。

第1号議案「平成30年度事業報告に関する件」と第2号

議案「平成30年度収支決算に関する件」については関連性があることから一括審議され、越海・専務理事が報告・説明を行った。報告によると今年3月末の会員数は622社と1年前に比べ51社増加し、年度末として設立以来最高となった。



越海・専務理事が議案を説明した

続いて会議の開催状況が説明され、この1年間に理事会を4回、運営委員会を10回開催し、関連団体などの25の主要行事に参加・協賛したことを報告した。

引き続き各事業委員会の事業活動が報告され、技術開発委員会では、木造軸組耐火構造の研究で設計マニュアル講習会を全国で22回開催し、約800人が受講した。「木造耐火大臣認定書」(写)も390件が発行され、累計で3,130件となった。省令準耐火構造では木住協特記仕様書を26,860部頒布し、累計で約24万3,000部となったことが報告された。

中大規模木造建築の検討では高耐力の耐久壁を開発するため、ベタリビングで性能確認試験を実施し、その結果を報告書と設計マニュアルとしてまとめた。このほか木造住宅の長寿命化のための改修成功事例集(グッドリフォーム事例)を発行、木住協ホームページでも公開したことを報告した。

## 長期優良住宅が建設戸数の40%を占める

生産技術委員会は既存住宅状況調査技術者の育成に力を入れており、昨年度は全国10会場で計20回の技術者講習を実施し624人が修了した。生産管理関係では将来の技能者不足に対応するため、富士教育訓練センターで会員企業の若手技術者6人が参加、延べ14日間にわたって初級訓練を実施した。安全衛生・CS関連では「工事管理者安全・産廃スキルアップセミナー」を開催、74人が受講した。また、建設リサイクル法の申請書類関係の帳票をエクセルにまとめ、ホームページにアップして会員企業向けに整備した。

2種正会員で構成する資材・流通委員会は、持続可能な生産システムの実現に向けての資材・設備のニュートレ



ンドに関する調査・研究活動を実施。「住宅のIoT」や「内装木質化による木のある空間」「民法改正が住宅業界に与える影響と対策」「第5回木造軸組工法住宅における国産材利用の実態調査」——などをテーマに、7回のセミナーを開催。また、技術開発委員会と生産技術委員会と合同で文化シャッターのライフイン環境防災研究所を視察するなど見学会も実施した。

業務・広報委員会では、自主統計・着工統計の実施と分析や木造住宅営業技術者教育・研修講習会、木造ハウジングコーディネーター資格認定試験、第21回作文コンクールなどを実施した。自主統計では木住協会員の木造住宅着工戸数が約9万2,000戸になり、このうち長期優良住宅が約3万5,000戸と40.9%を占め、初めて40%台に達すると同時に、建築着工統計の全国割合(19.7%)を大きく上回る結果になったことなどが報告された。調査結果は報告書としてまとめられ、8月に報告会を開催するとともに正会員各社や国土交通省、報道各社などに送付した。

作文コンクールは新たに外務省の後援を得て5つの大臣賞を冠するコンクールとなり、海外の日本人学校を含め約1万900点の応募作品が寄せられた。テーマの変更や審査員を一新したほか、応募文字数の制限を撤廃するなど大幅な見直しを行った。木造ハウジングコーディネーター資格制度の推進では、18回を迎えた木造ハウジングコーディネーター資格認定試験で688人が受験、このうち534人が合格し、累計の木造ハウジングコーディネーターが5,212人と初めて5,000人台を突破したことなどが報告された。このほか各支部と共催して省令準耐火講習会やスピードスケッチセミナー、新入社員などを対象にした木造軸組工法住宅の基礎知識講習も開催、営業担当者向けに初めて「ZEH化・省エネ住宅セミナー」も開催した。スピードスケッチセミナーでは全国10会場で93人、基礎知識講習も7回実施し153人の若年担当者が受講したことが報告された。

## 5府県と木造応急仮設住宅の建設で協定を締結

認定事業推進委員会では、木優住宅の取り扱い戸数が約2万2,800戸と3年連続で2万戸を突破した。これで昭和63年度以降の累計登録戸数は約41万4,000戸に達した。補償関係では平成23年から開始した「木住協工事総合保険」について会員企業からの意見や要望を取り入れ、平成30年度から地盤の崩壊に対応した「地盤崩壊危険補償」を特約として充実を図った。木住協のスケールメリッ

トを活かし、割安な保険料を実現したことで、64社が新たに加入した。

特命事項関係では、災害時の木造応急仮設住宅建設に関して都道府県との間で災害協定の締結を推進し、平成30年5月に和歌山県と神奈川県、12月に山形県、平成31年2月に大阪府、3月に愛媛県と協定を締結した。この結果、協定を締結したのは8府県となった。沖縄県を除いて全都道府県について初回訪問を終了しており、令和元年度に入って岐阜県、徳島県、高知県、香川県との間で協定を締結した。また、木造応急仮設住宅検討WGを6回開催し、本部と支部の業務分担フロー、幹事会社の役割、災害発生時の初動対応指針、応急仮設住宅供給対応マニュアルなどについて検討を行った。

総務・企画関係では支部体制の強化に取り組み、7月に北陸支部を設立したほか、2月に愛媛県新居浜市と高松市で四国支部設置説明会を開催したことを報告。応急仮設住宅の建設に係る検討として、支部担当を配置して特命担当のサポートを行うとともに支部設置地域の自治体への要請説明訪問も行った。このほか支部活動では支部ごとに独自色を出した講習会や営業研修・税務セミナー、商品技術勉強会、支部会員との懇親などを実施した。

各事業委員会が開催した講習会などは前年度より35回多い延べ276回、受講・参加者は約5,000人に達し、会員企業および従業員の資質向上に大きく寄与したことが越海・専務理事から報告された。

事業報告に続き第2号議案「平成30年度収支決算に関する件」が報告され、正味財産残高が約2億500万円になったことなどが説明された。第1号議案と第2号議案の審議を受けて監査報告が行われ、殿井一史・監事が「厳正な監査を実施し、適正に執行されていることを認めます」と報告。この後、市川・議長が2議案を諮り、原案通り全員一致で承認した。

この後、第3号議案「役員の選任に関する件」が審議された。新たに澤田敏文・南海不動産㈱常務営業本部長(近畿支部長)と河野守・㈱日本ハウスホールディングス取締役日本ハウス事業部本部長、近藤芳正・東京ガス㈱リビングサービス本部営業第二事業部長、大坪一彦・㈱LIXIL代表取締役社長兼COOの4氏を理事に選任、22人の理事・監事が選任された。選任された理事と監事の任期は令和2年度の定時総会までとなっている。

「役員の選任に関する件」を原案通り承認した後、市川・議長は「これまで務めてこられた役員の皆さまに心から感謝と敬意を表するとともに、新たに選任された役員の皆さんには今後とも本協会の運営につきまして一層のご支援、ご協力を賜りたいと思います」と述べた。

# 一般社団法人 日本木造住宅産業協会 役員

役 職	氏 名	主たる職業・役職	会員種別	備考
会 長	市川 晃	住友林業(株) 代表取締役社長	1種A	再任
副会長	中内 晃次郎	ボラテック(株) 代表取締役	1種A	再任
同	脇山 章治	(株)北洋建設 取締役最高顧問(九州支部長)	1種A	再任
同	億田 正則	大建工業(株) 代表取締役社長執行役員	2種A	再任
専務理事	越海 興一	常勤役員		再任
理 事	宮沢 俊哉	(株)アキュラホーム 代表取締役社長	1種A	再任
同	山口 信仁	サーラ住宅(株) 代表取締役社長	1種A	再任
同	三木 亨	三交不動産(株) 専務取締役(中部支部長)	1種A	再任
同	内山 和哉	積水ハウス(株) 常務執行役員渉外部長	1種A	再任
同	林 直樹	大和ハウス工業(株) 上席執行役員 住宅事業推進部長	1種A	再任
同	佐藤 孝司	(株)土屋ホーム 副会長	1種A	再任
同	近藤 昭	(株)松家住宅 最高顧問	1種A	再任
同	阿部 憲一	(株)細田工務店 代表取締役社長	1種A	再任
同	竹中 宣雄	ミサワホーム(株) 取締役会長	1種A	再任
同	江井 政仁	(株)えねい建設 代表取締役(静岡県支部長)	1種B	再任
同	安田 正介	(株)サンゲツ 代表取締役社長執行役員	2種A	再任
同	張本 邦雄	TOTO(株) 代表取締役会長兼取締役会議長	2種A	再任
同	島村 明	(株)ノダ 常務取締役	2種A	再任
同	山田 昌司	パナソニック(株)常務執行役員 ライフソリューションズ社上席副社長	2種A	再任
同	関口 芳隆	吉野石膏(株) 代表取締役専務取締役	2種A	再任
同	高橋 純一	YKK AP(株) 取締役副会長	2種A	再任
同	澤田 敏文	南海不動産(株) 常務取締役営業本部長(近畿支部長)	1種A	新任
同	河野 守	(株)日本ハウスHD 取締役日本ハウス事業部本部長	1種A	新任
同	近藤 芳正	東京ガス(株) 営業第二事業部事業部長	2種A	新任
同	大坪 一彦	(株)LIXIL 代表取締役社長兼COO	2種A	新任
監 事	後藤 修	(株)一条工務店 執行役員営業部部長	1種B	再任
同	殿井 一史	ニチハ(株) 取締役専務執行役員	2種A	再任

令和元年5月30日現在



## 「会員サービス向上と地域貢献強化」を重点事業に

定時総会では引き続き越海・専務理事が「令和元年度事業計画及び収支予算」を報告した。事業計画では重要事項として、「支部未設置地域への支部設置を促進し、本部支部連携の強化、充実等を通じ、協会活動の活性化を図り、会員サービスの向上を目指す。また、都道府県との災害協定の締結等を促進するとともに、木造応急仮設住宅の供給体制の整備を図るなど、地域貢献の強化を目指す」とし、7項目の事業計画を定めた。

### 令和元年度事業計画

①良質な住宅ストックの形成とリフォームの推進(耐震性、耐久性等に優れた長期優良住宅及び長期優良住宅化リフォームの普及に努める。低炭素社会の実現に向け、省エネルギー性能に優れた住宅の普及に努める。良質な住宅ストック形成の推進及び既存住宅の流通促進等に向け、「木住協リフォーム支援制度」の更なる普及・改善に努めるとともに、「既存住宅状況調査技術者」講習を実施し、「木住協リフォーム診断員」の育成を図る。既存木



- 造住宅の耐震診断や耐震改修の普及・啓発に努める)
- ②木造建築物の普及促進(木造による耐火建築物や中大規模建築物の普及に向け、設計自由度向上や省施工に資する新たな大臣認定取得や中大規模建築設計ガイド等の充実に努め、木造耐火・省令準耐火構造及び中大規模木造に係る講習の展開を図る。公共建築物等木材利用促進法に対応し、高齢者向け住宅、福祉施設、教育施設等を含む木造建築物の需要拡大を図る)
  - ③広報活動の推進(「作文コンクール」21回の実績を踏まえ、時代のニーズに即したコンクールとして発展、充実を図る。住宅・建築行政に関する情報収集と会員への迅速な情報提供に努める。各事業活動のリリース、記者懇談会等、広報活動に努める)
  - ④人材育成の推進(住宅生産に関する技術の向上と品質の確保、生産性向上のための調査、研究及び支援を行い、教育・訓練を実施する。建築大工技能者不足を考慮し、技能者育成に向けた取り組み強化を図る。木造ハウジングコーディネーター資格認定制度の充実及び普及を図る。住宅税制、スピードスケッチ、構造塾、木造基礎知識等、人材育成に資する講習を積極的に実施する)
  - ⑤良質な資材の普及と木質化の推進(快適な住生活、住環境に適した良質な資材の普及と木造建築や流通の新しい動きなどについて調査、研究を行う。国産材利用実態調査のデータ分析を行い、国産材利用の促進を図る。建築空間の「内装木質化ガイドブック」の充実に努め、セミナー等を通じて普及を図る)
  - ⑥木優住宅等の推進(木優住宅の普及拡大を推進するとともに、木造住宅検査員制度を推進し住宅の品質向上を図る。建築工事中の事故等に備えるため「木住協工事総合保険」の普及を図る。防災対策の一環として「木住協業務災害補償制度」の普及を図る)
  - ⑦その他活動全般(無料法律相談、セミナー等を通じて会員サービスの充実を図る。倫理憲章及び環境行動推進宣言の普及、定着に努める)

各事業委員会の具体的な事業計画テーマも報告された。このうち新規分の主なテーマは以下の通り。

#### ●技術開発委員会

##### 木造軸組工法技術向上の研究

- ①木造耐火構造について講習会の充実(支部連携強化)、利用増加策・運営ルールの検討。設計マニュアル/手引きの改訂。準耐火構造認定仕様の検討。
- ②省令準耐火構造について利用増加策の検討。

##### 中大規模木造建築の整備

- ①木造の可能性拡大検討。中大規模木造建築物設計資料集の策定。高耐力な耐力壁について、イ)ウ)を一体化した設計ガイドラインの整備、講習会の実施。

##### 建基法関係法令等の改正に伴う対応、技術成果物の改訂

- ①建基法改正(防耐火性能に関する規制緩和等)、告示公布に対す木住協の提案。建基法改正に関する講習会の実施。

#### ●生産技術委員会

##### リフォーム関連

- ①リフォーム業務の営業～アフターまでの業務内容の理解推進支援(人材育成推進)の実施。リフォームセミナーの実施(会員外も対象)。リフォームにおける現場マナー、トラブル防止、安全管理の研究。「安心R住宅」制度の運用に向けて、特定既存住宅情報提供事業団体登録に向けた取り組み。

##### 生産管理関連

- ①「地域に根差した木造住宅施工技術体制整備事業」への参画。建設キャリアアップシステム及び登録建築大工基幹技能者講習普及に向けた検討。地盤品質判定士実務必携テキストを基にした講習会の企画。

#### 安全衛生・C S 関連

- ①現場監督の安全知識と現場管理能力を向上させるツールとして作成されている教材を効果的に活用する方策の検討。潜在的な「安全リスク」を撲滅し、「労災0」に向けた「現場K Y T」を普及させることで、顧客満足度向上につなげる。

##### 建設副産物関連

- ①排出事業者の産廃管理スキルアップのための教材の検討(マニフェスト伝票の書き方、処理場踏査の手順等)。

#### ●資材・流通委員会

##### 住宅関連の政策・制度及び新素材・新技術の調査・研究

- ①改正民法などの会員の事業活動に関連するテーマの選定と支部と連携したトレンドセミナーの企画。支部と連携した見学会の企画。

##### 2種会員の商品情報の発信と勉強会の実施

- ①商品テーマ別掲載と商品テーマの充実検討。

##### 木造住宅等に関わる資材・流通の調査・国産材利用実態の調査

- ①第6回「国産材の利用実態調査」に向けた非住宅や地域別、規模別調査のためのフォーマットづくり。「内装木質化ガイドブック」の配布、セミナーの開催等による内装木質化の普及活動。

#### ●業務・広報委員会

##### 広報活動

- ①ホームページの全面リニューアル(総務部と連携しWGを立ち上げ)。ホームページなどに支部紹介ページの充実。

##### 作文コンクールの実施

- ①WE B 応募、個人応募の増加

##### 機関誌「木芽」の発行

- ①支部活動(応急仮設等)の取り組み状況報告の充実。

##### 木造ハウジングコーディネーター資格制度の推進

- ①2種会員への拡充。更新講習の内容改善。

### スピードスケッチセミナーの開催

- ①支部イベントへの参画。

### ZEHセミナーの開催

- ①省エネ法関連情報の収集。

### 木造軸組工法住宅の基礎知識講習の充実

- ①新テーマ「資金計画」を盛り込み、講習内容の拡充。

### ●認定事業推進委員会

#### 「木優住宅」取り扱い事業運営

- ①10年延長保険の利用促進。
- ②共同住宅取り扱い強化。
- ③リフォーム・既存売買瑕疵保険の取り扱い拡充。
- ④W E B更新システムの内容改善。
- ⑤個人向け2号保険の導入。

#### 「木優住宅」の瑕疵保証事故の抑制

- ①検査WGにおける体験型実技研修の実施。保険申請業務の合理化。

### 「木住協保険」取り扱い事業運営

- ①工事総合保険の内容改善(木造建築物へ保険適用の拡大)。労災上乗せ保険の利用推進。地盤保険の利用推進。

### ●総務・企画

#### 協会活動の強化

- ①安否確認システムの導入。H Pリニューアル。会員サービス拡充と明確化による入会促進。
- ②支部未設置地域の支部設置促進

### ●特命事業

#### 災害時の木造応急仮設住宅の対応

- ①支部内及び地域での応急仮設住宅の取り組み活性化対策。支部活性化に向けた本部支部体制強化の検討。



## 各支部もセミナー、講習会開催など充実へ

各支部の事業計画のテーマも合わせて発表された。主な事業計画は次の通り。

### ●北海道支部

- ①木造応急仮設住宅の建設に関する検討
- ②協定締結に関する活動
- ③建築物等の見学会の実施

### ●東北支部

- ①セミナーの実施
- ②木造建築物の見学研修
- ③応急仮設住宅建設協定締結に向けた活動

### ●神奈川支部

- ①かながわ家づくりフェア参画
- ②製品情報収集見学会の実施
- ③研修セミナー、ショールーム、工場見学会の開催
- ④経済・業界動向の経営セミナーの開催
- ⑤応急仮設住宅建設協定締結に係る知識・技術の習得

### ●北陸支部

- ①「リスク対策セミナー」「住宅税制講習」「耐火建築物マニユアル講習」「省令準耐火講習」の実施
- ②他支部との合同見学会の開催

### ●静岡県支部

- ①経営者研修会、技術者講習会、営業研修の実施
- ②現場見学研修の実施
- ③分科会の実施
- ④応急仮設住宅協議会の活動
- ⑤「木芽」を活用した営業活動。自然災害に対する共同活動

### ●中部支部

- ①1種正会員、2種正会員相互の連携強化を目的とした各

### 種勉強会の開催

- ②歴史的建築物や街なみ及び住関連資材工場の研修見学会の開催
- ③本部と連携したセミナーの実施
- ④応急仮設住宅建設協定締結・活動

### ●近畿支部

- ①講演会の開催
- ②商品・技術勉強会の実施
- ③設計・営業担当向けセミナー開催
- ④「木造住宅の日」記念研修見学会の実施
- ⑤伝統的建築物研修見学会の実施
- ⑥他支部との情報交換
- ⑦木造住宅耐震診断・改修相談窓口への技術者派遣
- ⑧応急仮設住宅建設協定締結・活動

### ●九州支部

- ①会員相互の情報交換
- ②講習会、セミナーの開催
- ③会員開催イベントへの参加
- ④「森林環境保護」活動への参加
- ⑤歴史的建築物等の研修見学会の実施
- ⑥各エリアの支部活動(懇談会等)の実施
- ⑦各エリアにおける災害協定締結の推進
- ⑧小学校訪問P R活動
- ⑨応急仮設住宅建設協定締結・活動

この後、定時総会では越海・専務理事から令和元年度収支予算が説明され、最後に市川・議長が退任する理事らを紹介すると同時に感謝の意を表明し、定刻通りに終了した。





## 令和元年度功労者表彰式も開催 会員26社と個人28名の功績を顕彰

定時総会の終了後に同じ会場で令和元年度功労者表彰式を行った。この表彰制度は協会設立10周年にあたる平成8年に制定され、事業部門で顕著な功績を挙げられた会員企業と、業務部門として本部・支部の運営などに顕著な功績のあった功労者を顕彰するもので、表彰会員企業(者)は先の理事会で承認された。

功労者表彰では<別表>の通り、木優住宅事業で顕著な功績を挙げられた会員や1時間耐火構造関係、省令準耐火構造関係、木造ハウジングコーディネーター関係、委員会関係などで貢献した会員企業26社が事業部門で表彰された。業務部門表彰では本部関係者や入会促進、神奈川支部、中部支部、近畿支部の運営などに尽力した28名を功労者として表彰した。

事業部門表彰では、市川・会長が26社を代表して木優住宅事業で顕著な功績を挙げた(株)レオハウスに感謝状と記念品を授与した。業務部門表彰では28人を代表して近畿支部の幹事、運営委員として長年にわたって支部発展のため尽力した(株)ハウステックの松本講平氏に感謝状と副賞を授与した。



市川・会長は「この度の受賞、心からお喜びを申し上げます。木住協が展開している各種の事業に対して深いご理解をいただき、皆さんのおかげで事業を推進できたことに感謝申し上げます。本業で忙しい中であって、多大な貢献をいただきましたこと、心から敬意を表します。引き続き木住協を支えていただくことをお願い申し上げます」と受賞会員と功労者を褒め称えた。

これを受けて全受賞者(社)を代表して(株)レオハウスの竹中一行氏が、「令和の時代に入って、このような賞をいただいたことを励みに、これからも皆さんと一緒に木造住宅の普及と木住協の発展のために注力していきます」と謝辞を述べた。



謝辞を述べる竹中氏

### 功労者表彰受賞者

#### ■事業部門表彰

##### 木優住宅事業関係

(株)レオハウス	さくら地所(株)
(株)日本ハウスホールディングス	(株)北洋建設
(株)オープンハウス・ディベロップメント	(株)サティスホーム
(株)アキュラホーム	(株)田舎暮らし
(株)ファイブイズホーム	井上建設(株)
(株)ウッドフレンズ	(株)桔梗企画設計
広島建設(株)	(株)益岡工務店
アエラホーム(株)	(株)和奏建設
アイデザインホーム(株)	

##### 1時間耐火構造関係

住友林業(株)	(株)ヒロホーム
イズアーク(株)	

##### 省令準耐火構造関係

東宝ホーム(株)	(株)谷川建設
----------	---------

##### 木造ハウジングコーディネーター関係

(株)シアーズホーム	(株)一条工務店
(株)エサキホーム	

##### 委員会関係

BXカネシン(株)
-----------

#### ■業務部門表彰(功労者)

##### 本部関係

加来 純子(サーラ住宅(株))
大久保 喜代司(三交不動産(株))
木谷 吉秀(ミサワホーム(株))
林 賢治(株)ハウステック
大森 浩市(株)エヌ・シー・エヌ
千葉 将(株)日本ハウスホールディングス
荒川 純一(前:日本木造住宅産業協会)
中川 智之(大建工業(株))
高増 幹弥(住友林業(株))

##### 入会促進

荒井 秀人(BXカネシン(株))
石川 俊之(株)新都心エージェンシー
遠藤 龍司(BXカネシン(株))
小尾 英彰(ジャパンホームシールド(株))
加藤 博昭(株)アキュラホーム
亀村 英樹(株)地盤審査補償事業
五所 克行(住友林業(株))
近藤 昭(株)松家住宅
竹中 宣雄(ミサワホーム(株))
田中 千義(住友林業(株))
西山 哲郎(チトセホーム(株))
三木 亨(三交不動産(株))
水野 康徳(株)アーキセプト
保井 幸夫(株)東洋ホーム

##### 支部関係

神奈川支部	上田 浩二(大建工業(株))
中部支部	川合 啓之(積水ハウス(株))
	杉山 喜重(株)LIXIL
近畿支部	松本 講平(株)ハウステック
	柴田 隆弘(大建工業(株))



## 引き続いて理事会と記者会見も開催

定時総会と功労者表彰を終え、「鶴亀の間」で第1回理事会を開催した。席上、新たに理事に就任した各氏を一人ずつ紹介し、会長に市川・会長を、副会長に中内晃次郎・副会長と脇山章治・副会長、億田正則・副会長を選任した。また、新年度に入って以降の事業執行状況などが説明された。

さらに市川・会長と副会長、専務理事に運営委員長や運営副委員長、各事業部長らが加わって記者会見を開催した。冒頭、市川・会長は「会員各社はさまざまな住宅事業を展開しており、木に囲まれた心安らぐ住環境を提供することが木住協の使命となっています。環境にやさしい素材である木造住宅と木造建築物の供給は、日本社会にとって重要な課題であり、地方自治体と連携するだけでなく、林業・木



活発な質問が寄せられた記者会見

材産業と一緒にあって地方創成を念頭に事業活動を進めてまいります。今後とも木の可能性を活かした木住協の取り組みにご注目していただきたい」と挨拶した。

記者会見では、越海・専務理事が承認された令和元年度の

の事業計画と重要事項などを具体的に説明した。これに対してメディアの記者から①会員増加の要因②安心R住宅の登録団体に申請する時期——について質問が寄せられ、市川・会長が「会員が増加しているのは昨年度に入会金無料キャンペーンを展開したほか、支部の設置や支部活動を積極化して会員増強の活動を展開したこと」と述べた。安心R住宅の登録団体申請については、越海・専務理事が「6月以降に準備が整い次第、速やかに申請したい」と回答した。



第1回理事会



## 来賓など約400人と和やかに懇親パーティー

記者会見に引き続き、午後5時から定時総会に出席した会員や来賓、関係諸団体の幹部など約400人が参加して

「富士の間」で懇親パーティーを開催した。

懇親パーティーでは来賓を代表して挨拶した小林靖・

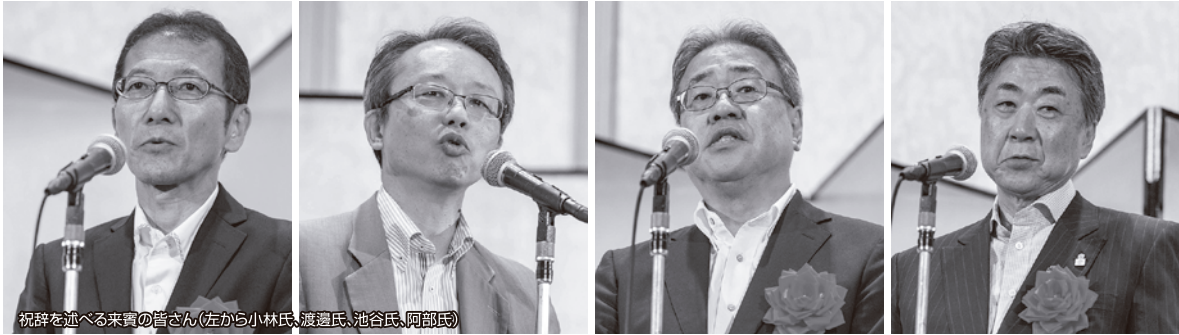
国土交通省大臣官房審議官は、「首都圏を中心に大規模施設の建設が相次ぎ、その中で木が注目を集めています。国交省も林野庁と連携して今まで以上に木造住宅と木造建築物の普及に努めていきます。木住協は精力的に活動しており、木住協の皆さんには木を上手に使って木造建築物を世に知らしめていただきたいと思います。木住協に期待しています」と期待を述べた。

続いて林野庁の渡邊毅・林政部長や池谷文雄・住宅金融支援機構副理事長、阿部俊則・住宅生産団体連合会会長が祝辞を述べた。



懇親パーティーには約400人が出席した





祝辞を述べる来賓の皆さん(左から小林氏、渡邊氏、池谷氏、阿部氏)

会場の一角には第20回作文コンクールまで審査委員を務めた書家・文字文化文筆家の宇佐美志都氏が描いた「令和の御代」の揮毫と、作文コンクールで審査委員長に就任したはせがわゆうじ氏が描いたイラストが飾られ、参加者たちが記念撮影するなど見入っていた。また、控室には会員各社のパンフレットや事業内容を説明したパネルが並べられ、手に取っていた。



会場に展示された令和の揮毫とイラスト

懇親パーティーでは脇山・副会長が乾杯の音頭を取り歓談に入り、懇親を深めた。会場では市川・会長や越海・専務理事に、今後の支部設置の予定や木造応急仮設住宅の協定締結状況などの追加質問をするメディアの記者も見られた。その後、中内・副会長が中締め挨拶を行い、参加者一同で木造住宅と木造建築物の普及を祈念して終了した。



控室に並べられた各社のパンフレット類

## 明治記念館の一角にある「さざれ石」

定時総会の会場となった明治記念館の中庭の一角には、国歌「君が代」の歌詞に「千代に八千代に さざれ石の巖となりて 苔のむすまで」と歌われている「さざれ石」が置かれている。学術上は石灰質角礫岩と呼ばれ、石灰岩が長い年月を経て雨水で溶解され、粘着力の強い乳状液によって次第に小石を凝固して石の塊になって、地表に露出したものである。

明治記念館は1881(明治14)年に赤坂仮皇居御会食所として竣工され、明治憲法の草案が審議されるなど由緒ある建物。現在でも瓦屋根や襖の把手、釘隠し、シャンデリアなどに当時の面影を残し、約1,000坪の庭園には50種、2,000本もの樹木が茂り、豊かな緑に包まれている。1907(明治40)年に当時の枢密院議長の伊藤博文に下賜され、1947(昭和22)年に明治記念館として開館した。2018(平成30)年に挙式件数が21万組を突破するなど、格式の高い結婚式場、会議施設として利用されている。

明治記念館の「さざれ石」は、「協調して新家庭を築き繁栄していく」という縁起物として置かれている。定時総会の合間に見学する会員企業の代表が多く見られた。木住協の会員が一致団結して木造住宅と木造建築物の普及に取り組む姿勢を示しているとも見え、来年の定時総会で「さざれ石」を見学してはどうだろうか。



# 地元で信頼を積み重ねる 「誠意と技術の家づくり」



香川県の西端に位置する観音寺市。穏やかな瀬戸内の海を臨むこの地に本社を構え、個人の注文住宅の設計・施工・販売を中核事業にリフォーム、不動産販売などを手掛けるのが、(株)三協(三協ハウジング)である。会社設立の昭和58年から今までに提供した住宅は約3000棟、現在は香川県・愛媛県に3つの営業拠点、5

つの住宅展示場を擁する香川県を代表するハウズビルダーとしての地位を築いている。木造の良さを活かした同社の住宅づくりの基本理念は、「誠意と技術の家づくり」。高度な施工技術を基にお客様のニーズに徹底してこだわる家づくりは顧客から高い評価を獲得、その姿勢が同社の躍進を支えてきた。実際、ここ10年ほど

は顧客からの評判が顧客を呼び、ほとんど営業活動することなく受注が舞い込んでいるという。こうした家づくりを牽引してきたのが、創業者でもある社長の吉田孝一氏。強力なリーダーシップを発揮する(株)三協のトップに、企業経営への取り組み姿勢、家づくりへのこだわりなどについて話を聞いた。





三協が誇るのは高度な現場力。現場監督をはじめ協力会社が一丸となって「誠意と技術の家づくり」を展開する。

## 27歳で起業 6畳一間からの出発

吉田社長が㈱三協を設立したのは昭和58年8月、28歳の時のことだ。

「27歳の時に父親が亡くなったのが、きっかけです。それまでは地元の設計事務所や工務店で働いていたのですが、個人事業として独立し、その翌年に法人としてスタートしました。」

吉田社長の父親は戦前に旧満州に赴き、戦後はシベリアに抑留されたという。帰国後は過酷なシベリアでの体験から体調を崩し、長期の入院生活を余儀なくされていた。こうした苦労を重ねた父親の死を契機に吉田社長は自らの人生を見つめ直し、一念発起して独立を果たした。それは、学校卒業時に抱いたある思いの実現でもあった。吉田社長は卒業式で歌った「仰げば尊し」の中の「身を立て 名をあげ やよ 励めよ」という一節を常に心の中に



上／本社ショールーム。  
下／丸亀ショールーム。  
住宅の設備機器、浴室、キッチンなど実物を確認しながら相談を受けられる。



抱き続けていたのだという。

会社設立当初は六畳一間からの出発だったが、その後の歩みは決して順風満帆だったわけではない。むしろ、苦闘の連続だった。何の実績もなく、また、『三協』と言っても誰にも知られていない状況では、それも当然だろう。どの家を訪ねても門前払いだったという。しかし、吉田社長は必死の思いで営業を続け、1棟受注するごとに誠意を尽くして家づくりを行った。その結果、同社は一度も赤字を計上することなく今に至っている。

「あの時からの1棟1棟の積み重ねが、今日までの3000棟につながりました。あつという間ですね。仕事に没頭していたため、30年前に頑張っていたことが昨日の出来事のように感じられます。」

吉田社長は設立時の様子をこんな風に述懐する。

また、会社設立以来、「一業に徹してきた」というように、建築・不動産を専業としてきたことも、同社の特徴のひとつだ。バブル期には様々な事業の誘いがあったものの、一切関わってこなかった。吉田社長自身も「あぶく銭はもたない」と、ゴルフ会員権も買わなければ、株にも手を出さなかった。会社の利益はすべてリスクの少ない建築不動産などに投資し、それが現在の不動産事業につながっている。まさに、建築・不動産の一本の道を追求し続けてきたのが、㈱三協の歩みと言えるだろう。

## 現場における 誠意と技術

㈱三協が掲げる理念は『誠意と技術の家づくり』だ。この実践が同社成長の原動力であり、「誠意」ある家づくりを実現する高度な現場力こそが、同社の大きな強みである。

「現場こそが、私たちの営業ツールなんです。いい仕事をしてお客様にご満足していただける家をお渡しすることが、次のお客様につながり、結

果として会社の利益になっていきます。」

住宅は施工後に形として残る商品だけに、口先だけの営業では通用しない。いくら調子のいいことを言っても、一目見れば、あるいは住んでみればその商品がいいか悪いかはすぐにわかる。1棟1棟の顧客満足が、現在の㈱三協の信頼とブランドをつくりあげてきたのである。

「『利は元にあります』という言葉があります。これは、利益は上手な仕入れから生まれるということですが、決して資材を安く仕入れるという意味ではありません。それだけではいい家をつくることはできない。『元』には設計者や現場監督、そして家づくりに関わる職人さんも含まれます。同じ物件でも、心のこもった監督がつくればいい家になるんです。現場監督を中心に設計者や協力会社が一丸となって志をひとつにし、お客様から信頼されることが大切です。」

また、家づくりの技術においても同社は際立っている。木造住宅の断熱



三協のZEH「NexSta(ネクスタ)」。平屋の優位性を活かしたバリアフリー住宅。ワンフロアで完結するのが魅力。





三協のZEH「Passive NexSta(パッシブ ネクスタ)」。自然のエネルギーを活かした、木の香りのする木造住宅。



機能、調湿機能、強度・耐久性、快適環境などを活かしながら、最上を求めた「Pridea(プライディア)」、ZEH住宅の「NexSta(ネクスタ)」、セレクト型のコンセプトの「LaxS(ラクス)」など多彩な住宅シリーズをラインナップしている。いずれも同社独自の高品質な住宅群だ。さらに、地震エネルギーを吸収するオイルダンパーを全棟標準装備しているのも、同社ならではと言えるだろう。四国という地であって、地元の住宅へのニーズに耳を傾け、高度な技術で応えることで、同社は顧客からの厚い信頼を獲得してきたのである。



お客様の要望を聞いてそれを形にする三協の設計チーム。企画設計が3名、実施設計が4名で、次世代の家づくりに取り組む。

## アフターサポートと不動産分譲

『誠意と技術の家づくり』という理念は、単に家づくりだけに限定されたものではない。例えば、アフターサポート。同社は香川県の中心部に近い丸亀市にアフターサポートの拠点を構えている。

「丸亀からなら県下のどの地域でも、車で1時間あれば行くことができます。そこで、この拠点からすべてのお客様に1年、3年、5年、10年点検などのアフターサポートに出向きます。お客様から来てほしいといわれる前にお伺いすることが大事だと考えています。」

一般にハウスメーカーのアフターサポートはクレームなどを受けることが多いため、行きやすい顧客先へのみ足を運ぶことになりがちだ。しかし、同社はすべての顧客を平等に回することを徹底している。こうした点も、常に顧客満足を最優先する同社らしい。

また、不動産事業による土地の分譲も、同社が顧客に提供する家づくりの付加価値と言えるだろう。同社のホームページには「分譲地情報」として、観音寺市、三豊市、丸亀市、高松市の分譲情報が掲載されている。家づくりのための土地の提供である。

「家を建てたいお客様に土地をお世話し、心を込めて家をつくり、メンテナンスやリフォームを通して何十年もサポートし続けていく。東京などの都心部ならどこかで手を抜いてもいいかもしれませんが、香川という地方ではそれは許されません。すぐに信用がなくなってしまう。だからこそ、土地探しもお手伝いしますし、アフターサポートもしっかり行います。」

## 思いを受け継ぐ若い世代たち

「私は従業員には厳しいです。忍耐強く、熱意を持って仕事に取り組むよう、具体的な言葉で表現しながら指導しています。私が培ってきた『絶対にへこたれない』という思いを受け継いで

ほしいと願っています。」

吉田社長自らがこう語るように、業界内でも教育への取り組み姿勢の厳しさは有名だという。とりわけ顧客と直接コミュニケーションをとる現場監督、顧客のニーズを聞いてそれを形にする設計担当などには熱心な指導を行っている。一方、責任感を持たせるためにもどんどん仕事を任せていくのも、吉田社長ならではの。

「自動車やスマホのネット技術が今の生活をリードしていますが、いずれそれらは住宅に取り込まれることになるでしょう。おそらく住宅は今後、大きく変わっていきます。そうした変化に対応するためには、若い世代の感性やアイ



最上級を求めた特別な住まいが、「Pridea(プライディア)」。手触りなど五感に訴える部分の設えにも細心の注意が払われている。

デアが必要です。私が口を出せば、意思決定のスピードも遅れます。ですから、新たな家づくりや先端技術の導入などに関しては若い社員たちに任せています。」

最後に(株)三協のこれからの展開について聞いた。この先、同社はどのような方向に進んでいくのだろうか。

「今後はローコスト住宅と高級注文住宅への二極化が進んでいくでしょう。当社はローコストの市場には参入せず、今まで通りの住宅をつくり続けます。いい仕事をしてその対価に見合った金額で住宅を販売しないと、社員も疲弊するばかりです。いい仕事をし続けることこそが、私たちの進む道だと考えています。」

初志貫徹。『誠意と技術の家づくり』はいつの時代にあっても色あせることなく、(株)三協のブランドを支えていく。





Shuhei Kubota

## Q.お仕事内容は？

専門学校を卒業して当社に入社以来、14年間にわたってずっと現場監督の仕事に携わっています。昼間はほとんど現場を巡回。現在は6～7件ほどの現場を担当しています。

## Q.印象に残った出来事は？

入社早々の頃、2件目の家を担当した時のことです。新人ですからわからない事ばかりで、お客様にもたくさんご迷惑をおかけしました。ですが、ひたすらお客様と向き合い、一生懸命に取り組みました。業者さんやメーカーさん、職人さんにも助けていただき、またお客様も電機メーカーの技術系の方でしたので様々なことを教えていただきました。そして、最終的に家が完成した時にお客様から「思い通りの家ができました」と感謝されたのです。とても嬉しかったです。また、何事にもぶつかって進んでいくことの重要性にも気づきました。この家づくりで体験した一生懸命の大切さは、今も私の原点になっています。

## Q.心がけていることは？

私一人では何もできません。家づくりは協力会社さんや職人さんがいて、はじめてできるものです。ですから、現場監督という立場ではありますが、上からではなく周りの方と同じ目線に立ち、一緒に仕事に取り組むことを心がけています。協力会社さんや職人さんと信頼関係を構築することはとても重要です。いいチームワークが、いい家をつくることにつながるのだと思います。

## Q.今後の目標は？

私が勤務している丸亀支店では、当社はまだエリアのトップビルダーではありません。ですから、私たちの力で(株)三協のブランドをもっと高めていきたいと思っています。お客様と密着しながらご満足していただける家を建てる現場の力を発揮していけば、他社に負けない会社になると信じて、これからも頑張っていきます。

## Company Profile

### 【会社概要】

株式会社 三協  
代表取締役社長 吉田孝一

所在地  
〒768-0012 香川県観音寺市植田町1713-1

電話 0875-23-2388  
FAX 0875-23-1694  
URL <http://www.k3kyo.co.jp>

### 【会社沿革】

1982年 三協創設  
1983年 有限会社三協創立  
1986年 不動産部門創設、株式会社三協に改組  
1990年 株式会社三協ハウジング創立  
1995年 セトラ宇多津展示場開設  
1997年 シエスタ観音寺展示場開設  
2000年 リファイン西讃開設  
2003年 セトラ高松展示場開設、リファイン中讃開設  
2006年 リブ川之江展示場開設  
2011年 西讃展示場開設、四国中央展示場開設  
2015年 シエスタ21展示場開設  
2016年 住宅公園パル展示場開設  
2018年 ゆめ展示場オープン  
2019年 四国中央展示場オープン

### 【事業内容】

個人住宅・新築、個人住宅・増改築、共同住宅建築、  
建売住宅販売、各建築関係全般、土地取引全般（企画・設計・施工）

## (株)三協のこだわりPOINT

## 現場力で顧客満足を高めていく。



### 社長のひとこと

現場が花形であり、現場が営業です。

現場の力でお客様に満足いただける家をつくることが重要です。





## 四国支部の設立総会を開催

支部長に栗原・住友林業(株)松山支店長を選定、  
全国9番目の支部に  
木造応急仮設住宅の建設対応や  
会員会社の人材育成など事業計画を承認



全国9番目の支部組織として四国支部を設立——。四国4県に本・支店などを置く会員企業の代表らが参加して、6月26日午後、四国支部の設立総会が愛媛県松山市内のホテルで開催された。設立総会では支部名称や幹事の選任、令和元年度事業計画などをそれぞれ満場一致で承認し、支部長に栗原健志・住友林業(株)松山支店長を選定した。4県の協賛会員を含め47社で構成する四国支部は、昨年7月に設立された北陸支部に続いて9番目の支部となり、木造応急仮設住宅の建設に関する検討や人材育成のための各種セミナー開催など、具体的な事業をスタートさせた。

午後3時30分から松山市の「ANAクラウンプラザホテル松山」で開催された設立総会には、正会員43社などから約70人が参加。竹内好弘・住友林業(株)住宅・建築事業本部松山支店次長が司会役を務め議事が進められた。



約70人が出席した四国支部設立総会



設立総会で挨拶する市川会長

審議に先立ち市川晃・会長が挨拶に立ち、「木住協は各種活動を積極的に行い、さらに展開するには各地域での推進体制が極めて重要で、強固なネットワークを形成することが必要と考えています。南海トラフ地震も想定され、近年ますます自然災害の脅威が高まるなかで、四国4県との間で木造応急仮設住宅の建設協定が締結されました。万一の場合に居住性に優れた木造応急仮設住宅の提供が重要な使命で、四国地域における支部設置が必要不可欠となっています。今後の支部活動には木住協本部として精一杯の支援してまいりますので、会員の皆さまには積極的なご支援、ご協力をお願いいたします」と述べ、支部組織の役割や支部活動の重要性を強調した。

### 10人の支部幹事を選任

続いて議長の選任を行い、支部長が選任されていないことから越海興一・本部専務理事を議長に選任し、審議が進められた。設立総会では第1号議案「支部名称に関する件」、第2号議案「支部組織に関する件」、第3号議案「支部役員(幹事)の選任に関する件」、第4号議案「令和元年度事業計画に関する件」、第5号議案「令和元年度収支予算に関する件」の5議案が審議された。このうち第1号議案について、佐々木陽一・本部総務部長が「支部の名称は、四国地域に本・支店等を置く正会員会社及び賛助会員で構成することから、四国支部と称する」と説明、満場一致で承認した。

第2号議案も佐々木・総務部長から説明され、全員一致で承認した。四国支部の組織は、支部総会の下に幹事会と事務局を置き、幹事会の下に運営委員会と必要に応じて各委員会を設置する。また、支部長の下に副支部長と支部幹事、事務局長を置くことを決めた。

第3号議案では設立準備事務局から幹事候補者案が提出され、別添の通り10人を支部幹事に選任することを承





支部長に就任した栗原氏(左)と副支部長に就任した花岡氏(代理、中央)、仲西氏(右)

認し、一人ずつ紹介した。任期は「令和2年度に関する支部総会の終結の時まで」(令和3年3月)となっている。

### 幹事会で副支部長に花岡氏と仲西氏を選定

第4号議案と第5号議案は一括で審議され、このうち第4号議案の令和元年度事業計画では、①支部応急仮設住宅に関する活動②支部会員会社の人材育成のための研修等の実施③設立総会の開催④幹事会の開催⑤定時支部総会の開催⑥幹事会の開催——の6項目の事業計画テーマが掲げられた。

具体的実施策では、支部応急仮設住宅に関する活動で①委員会等の設置準備②公共団体との協議・調整を実施する。人材育成のための研修等では、①リスク対策セミナー②住宅税制講習③1時間2時間耐火建築物マニュアル講習④省令準耐火講習——などを各県で開催し、支部会員の業績向上と人材のスキルアップを図ることにしている。越海議長は「木住協本部と四国支部が緊密な連携の下、支部会員の増

強と具体的な事業に取り組みたい」と述べた。

この後、両議案とも原案通り承認し、四国支部の設立総会は定刻通りに終了、具体的な事業に取り組むことになった。

設立総会終了後に第1回幹事会が別室で開催され、栗原健志・幹事を支部長に、副支部長に花岡秀芳・幹事(株はなおか代表取締役)、仲西博明・幹事(三協立山(株)四国支店住宅建材部部長)をそれぞれ選定した。支部事務局は住友林業の松山支店内に設置され、事務局長には竹内・松山支店次長が就任した。

### 70人が出席し懇親パーティーで船出を祝う 来賓の3氏がそれぞれに支部発足に期待

引き続き同ホテルの「ルビールーム」で来賓や総会出席者、木住協本部関係者ら約70人が出席して懇親パーティーを開催し、四国支部の船出を祝った。

初めに幹事会で選定された栗原・支部長と花岡・副支部長、仲西・副支部長が紹介された。続いて市川・会長が挨拶に立ち「選定された支部長、副支部長、幹事の皆さまには会員の皆さまと力を合わせ、より良い木造住宅と木造建築物の普及に尽力し、地域の活性化に努力していただきたいと思います。われわれの目的は良質で安心・安全、健康的な木造住宅を提供することで、社会のお役に立つことです。その上で会員の繁栄にも結び付けたいと思っています。今後とも関係各位のご指導、ご協力をいただきながら、四国支部が発展することを本部として支援していきます」と述べ、四国支部の船出を祝った。



懇親パーティーで四国支部の船出を祝った



## 特集Ⅱ



祝辞を述べる太田・国交省住宅調整官



間島・林野庁愛媛森林管理署長



松村・住宅金融支援機構四国支店長

さまの発展に期待しています」と祝辞を述べた。

続けて間島重道・林野庁四国森林管理局愛媛森林管理署長が、「四国は神代の時代から人々が住み続け、文化が培われてきた風土で、瓦屋根が似合う街なみが続いています。こうした街なみに叶う家づくりが、設立された四国支部

の活動を通じてさらに進展することを願っています」と述べた。

かつて作文コンクールの審査員を務めたことがある松村収・(独)住宅金融支援機構四国支店長は、「四国は全国有数の林業地域で、住宅金融支援機構では木材を使って地域を活性化する皆さまのお手伝いをしたいと思っています。今日の四国支部の設立で、地域の木造住宅の普及と木材産業の振興に大いに期待しています」と語り、四国支部の今後の活動に期待を寄せた。

懇親パーティーはこの後、仲西・副支部長が乾杯の発声を行い、歓談に入った。会場のあちらこちらで四国支部の発足を祝いながら談笑が行われ、終始和やかな中で進められた。最後に相中春一・幹事(株相中組代表取締役)が中締め挨拶を行い、北陸支部の発展を誓い合って無事に一連の設立行事を終了した。



木住協の支部組織は昭和59年11月に静岡県支部が設置されたのを皮切りに、昭和60年2月に近畿支部、昭和63年1月に中部支部、平成元年4月に神奈川支部、平成5年10月に九州支部、平成8年2月に東北支部、平成30年2月に北海道支部、同7月に北陸支部が設置され、今回の四国支部の設置によって全国9支部体制が確立されたことになる。

木住協では平成26年度から支部活動の活性化を事業計画の重点事項に掲げており、今後も未設置地域の解消を図ることにしている。

### 「地域から愛される四国支部に」 栗原・支部長

引き続き栗原・支部長が挨拶に立ち、「東日本大震災の時に、木造応急仮設住宅を建設したことが木住協の大きな転機になったと思っています。あの経験があったからこそ地域の皆さまに何ができるかということを改めて考える機会になりました。万一、大きな災害が発生した場合、ここにいらっしゃる皆さまのご協力がなければ満足に対応することができませんので、その際にはお力添えをお願いいたします。四国支部は令和元年に産声を上げ、令和の時代とともに歩んでいくことになります。私も微力ながら地域の皆さまから愛される四国支部になれるよう、頑張ってます」と就任の抱負を語った。

続いて来賓の方々が紹介され、太田悟・国土交通省四国地方整備局建政部住宅調整官は昨年に発生した平成30年7月豪雨に触れ「発生から1年が経過しようとしていますが、まだ多くの方々が不自由な生活を余儀なくされています。今後ともご支援をお願いします」と述べ、続けて「四国の人口減少は全国平均より約25年、高齢化も約10年早く訪れると言われ、深刻化しています。このため移住や定住を図ることが課題とされ、ひとつの方策として木造住宅の供給が挙げられています。また、災害に強い街づくりが求められ、本日の四国支部の設立によって安心・安全な住環境が実現できることと、会員企業の皆

### 四国支部の支部長と副支部長、幹事

役職	代表者氏名	会社名・代表者役職	会員種別	所在地
支部長	栗原 健志	住友林業(株)松山支店長	1種A正会員	愛媛県
副支部長	花岡 秀芳	(株)はなおか代表取締役	1種B正会員	徳島県
同	仲西 博明	三協立山(株)三協アルミ社四国支店住宅建材部部長	2種A正会員	香川県
幹事	森 隆士	ナイスホーム四国(株)代表取締役	1種A正会員	愛媛県
同	野村由美子	中庭住宅(株)取締役	1種A正会員	香川県
同	相中 春一	(株)相中組代表取締役	1種B正会員	愛媛県
同	堀部加壽春	さくらホーム(株)代表取締役社長	1種B正会員	徳島県
同	岡崎 秀悟	シュウハウス工業(株)代表取締役	1種B正会員	高知県
同	渡辺 史之	パワーホーム香川(株)代表取締役	1種B正会員	香川県
同	松井光太郎	(株)松井建設代表取締役	1種B正会員	愛媛県

令和元年6月26日現在、順不同、敬称略



# 工場勤務者の相談会と独自のチラシ配布などで年間350件を超す リフォーム受注

株式会社 えねい建設

リフォーム受注を獲得するためには、さまざまな知恵と努力が必要とされる。新築建設の先細りが懸念されている中で、リフォーム需要をどのように取り込み、受注に結び付けるかが、住宅企業として生き残りを賭ける“鍵”になると言っても良いだろう。今回の「リフォーム最前線」では、静岡市を中心に独自のリフォーム事業を展開している(株)えねい建設(本社=静岡市駿河区、江井政仁社長、1種B正会員)取材した。地元の大手製造企業の従業員や組合員を対象とした相談会、独自のチラシ配布など、木住協会各社にとってリフォーム事業の参考となる事例も多い。創業以来、60年近くにもわたって住宅事業を展開し続けており、今期は延べ350件を超えるリフォームを受注できる見込みという。同社のリフォーム事業の秘訣を江井博昭・専務に聞いた。



静岡市駿河区の本社



「お客さまに親身になって提案を」と語る江井・専務

J R東海道線・静岡駅の隣の駅である東静岡駅から徒歩で約10分、草薙総合運動公園の近接地に4階建ての(株)えねい建設の本社社屋がある。1961(昭和36)年6月に江井政仁・社長と江井博昭・専務の父親と叔父が創業し、1980(昭和55)年10月に会社組織に衣替えした。

実に半世紀以上にもわたって住宅事業を展開していることになるが、地域住民からの信頼・信用と企業努力がなければ、これだけ長期間にわたって住宅事業を続けることはできなかっただろう。えねい建設では、オリジナルの外断熱・二重通気を採用した木造新築事業を中心に、

リフォームを第2の事業の柱に位置付けている。従業員は設計や積算、設計、現場監理など6人、社長と江井博昭・専務の経営陣を加えても8人という少数精鋭で住宅事業を行っている。

## 少数精鋭で“全社員営業”を展開 昼休み利用でリフォーム相談会

取材に応じてくれた江井博昭・専務は、「同業者の中には『工事費が100万円以下のリフォーム工事は請けません』などと言い切っている企業もありますが、当社では断ることはなく、ほぼすべての工事を請け負うことにしています」と語り出した。「理由はそれだけの技術力を持っているからです」とも続ける。

「ほぼすべてを請け負う」ことから、受注単価は2万円前後の少額から改築・増築を含めた2,000万円台の大型リ

フォームまでと幅広く、1件あたりの総額は平均400万円から700万円になるという。昨年10月から6月までに建築確認を伴わない工事を含めて、約270件のリフォーム工事を受注している。

江井・専務は「昨年の台風被害による補修リフォームが増えており、10月の消費税率アップを見据えて高額リフォームが多くを占めています。今期(9月期)は350件前後の受注件数を見込んでいます」。

地元の静岡市を中心に東は富士市、西は掛川市までの一帯を営業エリアとしており、住宅以外に店舗や工場・事務所スペースのリフォームなども手掛けている。住宅リフォームは新築事業での既客からのリフォームが中心で、増改築や水回り、内外装などを請け負っている。

えねい建設のリフォーム事業の特徴は、さまざまな手法を取り入れていること。その一つが企業の従業員や労働組合を対象としたリフォーム相談会の開催だ。

静岡市周辺には金属・電機の製造業や運輸関係などの工場群が多く、取引関係のある労働金庫とタイアップをして相談会を実施している。江井・専務は、「不定期ですが各企業の組合事務所などに出向き、昼休みなどを利用してリフォーム相談会を行っています。一つの事業所で500人から2,000人も従業員が勤務しているため対応が大変ですが、自宅の増・改築や水回りの改修といった多くの工事を受注しています」と強調する。

相談会の講師は江井・社長や専務が中心になり、住宅寿命を長持ちさせるための診断法や定期的なメンテナンスの必要性のほか、具体的な工事費用や施工日数などを説明し、個別の相談を受けることにしている。

## オレンジ色で統一した独自のチラシ作戦 本社周辺の8,000軒に配布、需要を発掘

2つ目の特徴は、きめ細かなチラシの配布だ。江井・専

務からA3版の大きさのチラシを貰った。裏表を活用して居室の改装や内装の変更のほか、エクステリアや外構リフォーム、屋根修理・耐震補強、オール電化リフォームなどが記載されている。工事費用は大きな文字で書き、工事メニューと工期、割引率を加えて、ところどころにバルコニーやキッチン機器、トイレの写真・イラストを掲載している。

片隅に「静岡で創業50年、安心満足リフォーム」「お気軽にお電話ください!!」という言葉と社名、連絡先だけを記載しているという簡単なもの。見た目はスーパーマーケットが配布するチラシと見間違えうほどだ。

配布は営業エリアの全域ではなく、本社所在地を中心とした小学校2校の学区内にある約8,000軒に限定している。隔月で配布することを基本に、季節ごとの状況に応じて新聞各紙に挟み込んで配布している。

説明の文字をオレンジ色で統一したことが秘密の一端と江井・専務。「地元で有名なスーパーマーケットがあり、そのスーパーがオレンジ色と白字で書いたチラシを毎週末に定期的に配布していました。近隣の人たちにとっては見慣れたチラシになっており、目に入りやすいように当社も同じオレンジ色を基調にして作成し配布しています」という。

効果は絶大で、配布から1週間が経過するころから電話が鳴り出す。網戸の交換や簡単な手摺の設置といった小さなリフォームから、クロスの張替えや畳替え、バリアフリー・リフォーム、外壁塗装といった大型の工事依頼が舞い込む。

「リフォーム工事をどこに依頼すればよいのかが分からない方が結構おります。地元の方々を大切にしたいという想いもあり、何か良いアイデアはないかと考えました」と江井・専務。「小さなリフォームが比較的多いのですが、リフォーム需要発掘の武器の一つになっています」と語っている。



オレンジ色で統一した独自のチラシ





## メンテ専門企業を共同設立 1回2万円の有償で実施へ

えねい建設のリフォーム事業を支える3つ目は、地元の同業2社と共同で2006(平成18)年に設立した「めんてかぶ」の存在。社名の通りメンテナンスの専門企業で、3社が受注・建設した新築顧客のメンテナンスを担当し、換気装置の清掃や建具の調整、キッチン・浴室の清掃作業、小屋裏の調査、白蟻調査などを実施している。作業はほぼ1日がかりになるが、特徴は年間1回2万円(消費税別)の有償で実施していること。

「車の車検制度と同じように、住宅も定期的に完璧なメンテナンスをすべき」という考えから有償で行っており、えねい建設では新築顧客の約80%が利用しているという。

江井・専務は、「お客さまのマイホームの主治医や家守のような立場で診断させていただいています。当初は利用していただけるかどうか心配でしたが、多くのお客さまから利用していただき安心しました」と語る。加えて「有償ということで、お客さまも無償のメンテでは言いづらい内容を言ってくれます。そんな会話の中からリフォーム工事を受注する機会が増えています」と続ける。

一般的に住宅業界では、顧客宅の訪問活動で不満や不具合を指摘されることが多いと思い、足が遠のいてしまう傾向が強いが、設立した「めんてかぶ」は有償とすることで顧客の不満を解消するだけでなく、より一層と親身な関係を築きながらリフォーム受注を獲得する機会にもなる策として注目されている。

## 3度もやり直した壁紙交換工事

えねい建設の営業エリアは、南海トラフ地震の発生が危惧されている地域と重なっている。このため、一般的なリフォーム工事に加えて耐震リフォームの実施を積極的に勧めており、これに応じて耐震リフォームを実施するお客さまが増えているという。

江井・専務は、「県民の間で大地震や津波に対する意識は強く、耐震リフォームなどの補助金制度をさらに充実することが必要と感じています」と語り、倒壊などの被害を防止することから国や県、自治体の補助・助成策の拡充を強調している。

えねい建設のリフォーム受注は、独特のチラシによる集客や相談会の開催、顧客からのリフォーム依頼が大半を占めているが、中身を聞くと紹介受注も多くを占めている。

中古住宅を購入して他社で数度のリフォームを行った

Aさんから、居室全部の壁紙交換の工事を請け負ったことがある。しかし、実際に作業に入ると下地材が痛んでいることが分かった。2度にわたって壁紙の交換を行ったものの、納得のいく作業ではなかった。江井・専務はAさんと相談を続け、3度目は下地の改修からすべてをやり直したという。

工事費は当初の予算を大きく超えてしまったが、誠意が伝わって外装改修も追加で手掛けることになった。さらにAさんから数件の紹介もいただいた。江井・専務は、「難しい工事でしたが出来栄えに満足していただき、こちらでも仕事のやり甲斐を感じました」と安堵した。良い仕事を紹介の連鎖を呼ぶ典型的な事例と言える。

## 「すべては”住み心地”のため」

江井・専務は「リフォーム工事で一番大切なことは、お客さまに言われた工事だけをやっていては駄目ということです。お客さまの希望だけでなく、痛んでいる箇所はないかなどを調べ、仮にリフォームの必要があることを見つけたら提案することが必要です。受注金額を増やそうとして、あれこれと指摘するのは本末転倒です。プロという立場で、親身になってお客さまにアドバイスをすること、アドバイスのできる人材育成が大切です。われわれはお客さまの家の主治医という存在です。家は人間の身体と一緒に、主治医のように診断しないとイケません」と力説する。

また、「当社は半世紀以上にわたって静岡で事業を行っており、地元根付いています。もう地元から逃げられないですね。それだけに雑なリフォーム工事などをしてしまうと、いつべんに信用を失ってしまいかねません。そのためお客さまの立場に立って丁寧な仕事を心掛けています」と語っている。

交換した江井・専務の名刺には、「すべては”住み心地”のために」と同社のキャッチフレーズが印刷されていた。「企業寿命は30年間」と言われている中で、半世紀以上も着実に住宅事業を展開しているえねい建設の企業姿勢を表している言葉だと感じた。

### 会社概要

本社所在地＝〒422-8005 静岡市駿河区池田358-1  
電話＝054-262-9595  
ファックス＝054-261-3292  
創業＝1961(昭和36)年6月10日  
設立＝1980(昭和55)年10月3日  
資本金＝2,000万円  
代表者＝江井政仁

## 木住協加盟3社も加わり

# 「里山住宅博inTSUKUBA2019」

茨城県つくば市で開催、県産材や自然素材を多用した家づくりをPRへ

茨城県つくば市で、木住協加盟3社も加わった地域工務店21社による「里山住宅博inTSUKUBA2019」が、11月まで開催されている。参加21社が県産材や自然素材を活用した23棟の木造住宅を建設し、独自の家づくりをアピールする試みで、地域工務店の協同事業の試金石としても注目されている。

この住宅博は、同市春風台の分譲地「春風台ヒュッゲガーデン」の一角に、各社が意匠を凝らしたモデルハウスを展示・販売する。木住協から県内に本社や支店を置く(株)アキュラホーム(宮沢俊哉社長、1種A正会員)、(株)オーヌキ(大貫博光社長、1種B正会員)、(株)カITEキホーム(石塚政憲社長、1種B正会員)の3社が加わった。主催は茨城県産材普及促進協議会、21社などで組織する里山住宅博inつくば実行委員会が運営する(茨城県、つくば市、茨城県林業協会、茨城県木材協同組合連合会が後援)。

昨年2月に閣議決定された「田園住居地域」を具現化する「つくばスタイルの先導的モデル提案事業」と位置付けている。ランドデザインやランドスケープの著名人が計画に加わっている。街区内の幹線道路にカーブを付け、運転者に車のスピードを自然とダウンさせ居住者の安全を確保している。モデルは近隣住民との語らいや自然との触れ合いを楽しめるコモンスペースと接し、住棟の間を往来できる小路も配置するなど工夫している。

参加各社は遠く筑波山を眺望できるよう開口部を大き



3月に行われた植樹祭では小学生の児童たちが苗木を植樹した

くとしたほか、ZEH仕様のモデルハウスなどを展示。床や壁材に茨城の県産無垢材を多用し、ウッドデッキを設置したり、間仕切りのない大空間設計を採用したモデルなど各社独自の工夫を凝らしていた。

今年3月下旬には周辺の小学校の児童、住民も参加して、地元に生育している桜、コナラ、クヌギなどの苗木を植える植樹祭や模擬上棟式も開催していた。6月1日にグランドオープンし、6月中に約400組の来場があったという。さる7月4日には県内や在京のメディアを対象に記者見学会も開催され、里山住宅博の街なみや県産材を多用したモデルに見入っていた。

実行委員の堀越隆幸・アキュラホームつくば支店管理担当は、「従来までモデルハウスを持つことができなかった地域工務店でも、住宅博に参加することによって受注の機会が増加しています。地元の木材を使って家を建てる地産地消の家づくりを、日本中に発信していきたいと考えています」と語っていた。





# 「住まいのトレンドセミナー」を開催 資材・流通委員会

## 小木曽・林野庁課長補佐が「建築物における 木材利用の拡大に向けて」を講演

資材・流通委員会(澤田知世委員長)は6月4日、木住協会議室で「住まいのトレンドセミナー」を開催し、小木曽純子・林野庁林政部木材利用課課長補佐が「建築物における木材利用の拡大に向けて」、肥後賢輔・全国木材協同組合連合会審議役が「平成30年度外構部の木質化対策支援事業」について講演した。同委員会の委員を中心に約40人が参加し、熱心に耳を傾けた。

午後3時から開始されたトレンドセミナーでは、最初に小木曽氏が講演。「2019年の森林蓄積は52億m<sup>3</sup>にも達しこの半世紀で大幅に増え、約6割を占めている人工林が主伐期を迎えつつあります」と述べ、利用の促進が急務となっていることを強調した。

森林環境を巡る課題として、手入れが行き届いている人工林が16%程度にとどまり80%は整備が遅れていること、所有者不明森林が約4分の1もあり、小木曽氏は「このままでは森林の経営管理や路網整備に支障をきたし、不在村や高齢化が進展する中で早急な対応が必要です」と危惧を表明した。このような現状から、林野庁では①森林の経営管理の責務を明確化し、②所有者が経営管理を実行できない場合は市町村が委託を受け、③意欲と能力のある林業経営者に再委託し、④再委託ができない森林については市町村が管理を実施する——ことを骨子とした森林経営管理制度を策定しており、国有林については立木を一定期間にわたって安定的に伐採できる区域を設定することで「長期・安定的に供給する」と述べた。

需要拡大に向けた川下の改革として、外材からの代替需要獲得やCLTによる中高層建築物への利用などを展開するほか、木材利用ネットワークづくり、内装木質化、木の文化の国内外への発信、木育活動を実施して需要拡大と利用の促進を実施。今年度に木材産業・木造建築活性化対策や木材需要の創出・輸出強化対策、合板・



講演する小木曽・課長補佐

製材・集成材などの国際協力強化対策を実施することになっている。

小木曽氏は公共建築物における木材利用の促進に向けた取り組みのほか、サステナブル建築物等先導的事業など活用可能な各省庁や自治体の各種制度を紹介し、「一層と木材利用の促進を図っていきたい」と強調した。

### 肥後・全木協連審議役が 「外構部木質化対策支援事業」を説明

続いて講演した肥後氏は、林野庁事業の外構部木質化対策支援事業の概要やスケジュール、建設施設・申請者の要件、使用木材の要件、補助金額などを詳細に説明した。木質化対策支援事業は、非住宅を含む住宅の外構部の木質化を図る取り組みを支援する事業で、同氏は「木質化の実証を行う工務店などの事業者の公募・審査・選定を全国木材協同組合連合会が実施し、木塀や柵などの外構施設で500万円を上限に補助金利用ができます」と語った。事業申請は10月末、交付申請(助成金申請)は12月20日までとなっており、同氏は「木住協の会員の皆さんには積極的に利用していただきたい」と同事業の活用を要請した。



事業を説明する肥後審議役



伊藤優也さん



## 「入職間もない若手営業マンは是非とも資格取得を」 と語るサーラ住宅株式会社の 伊藤 優也さん

誰しも1度や2度は思い出したくもない苦い経験があるのではないだろうか。今回の「木造ハウジングコーディネーター奮闘記」の主人公である、サーラ住宅株式会社(本社=愛知県豊橋市、山口信二社長、1種A正会員)の名古屋東支店大府展示場の伊藤優也・所長(42歳)も、そんな一人。入社3年目の営業マン時代のこと。満足な知識を備えていないままお客さまと契約してしまい、後になってトラブルに発生して苦い挫折感を味わった。「私に責任があり、基礎知識が大事なことを知りました」と当時を振り返っている。心機一転、出直しを誓った伊藤さんは、木造ハウジングコーディネーター資格試験を受験して見事合格。その後、トップセールスマンとして社内表彰され、1年前に所長に就任した。今では身に付けた知識と知恵を活用して、マネジメントと住宅営業に東奔西走している。

愛知県豊橋市内に両親と妻、二人の子供の6人で、17年前に自社で新築した二世帯住宅に暮らしている伊藤・所長。毎朝7時に起床し、車のハンドルを握って約1時間をかけて、9時前後に愛知県大府市にある中京テレビハウジング大府の自社展示場に到着する。これから多忙すぎる1日が始まる。

「モデルハウスや周辺の清掃、勤務する4人からその日の予定を聴き取り、ミーティングを行います。その後、毎週土・日曜日の商談の準備と打ち合わせというのが最近の典型的な1日です」と伊藤・所長。その後も若手社員との間でロールプレイングに時間をかける。午後からは土地調査や現場調査、前週の土・日に集客したお客さまへの営業活動と席が温まる暇がない。

### プレッシャーが先行した受験勉強 社内研修会に教材類を有効に活用

こんな毎日を送っている伊藤・所長は豊橋市の出身。東海大(政治経済学部)に学び、1999(平成11)年にサーラ住宅に新卒で入社した。豊橋、名古屋、岡崎で住宅営業

を務め、昨年8月に大府展示場に赴任すると同時に所長に就任。この間に約120棟を受注した実績を持つ。

木造ハウジングコーディネーター資格試験を受験したのは、会社からの勧めだった。入社して一通りの社内研修もあったが、「すぐに営業に配属され、まだまだ基礎知識が不足していると実感していましたし、苦い経験も体験していたので、勇んで受験勉強に取り掛かりました」。

しかし、待っていたのはプレッシャーだった。「日頃の業務で営業編は十分に理解できましたが、技術編は難しかったという記憶があります。時間を見つけての勉強も辛かったのですが、何よりも勉強をしながら『不合格になったらどうしよう』ということを常に考えていました」という。10数人を引率して大阪の試験会場に行く時も、「一人だけ不合格になったら格好がつかないなあ」という想いが募り、落ち着きをなくしていた。

結果は杞憂だった。晴れて木造ハウジングコーディネーターの資格を取得し、今まで以上に住宅営業に自信が付いた。その後の活躍は前述した通りで、年間13棟を受注してトップセールスマンになったこともある。伊藤・所長は「私たちの仕事に木造ハウジングコーディネー



ターの資格は不可欠です。受験勉強を通して基礎的な知識が得られ、入職間もない若い営業マンにとって、是非とも取得すべき資格と言えるでしょう。私もプレッシャーに押し潰されそうになって勉強して良かったと思っています」と笑みがこぼれた。

受験勉強に使用した参考書やテキストを今でも事務机の片隅に置き、疑問な点が出てくると読み返している。取得後の更新講習も受講し続けており、「制度の変更や最新の情報などを知ることができ、受講する意味があります」と語っている。

伊藤・所長は受験勉強や更新講習で使用したテキスト類を有意義に活用している。名古屋東支店傘下の4展示場では、持ち回りで、月1回、情報共有と新人教育を目的に研修会を開催している。伊藤・所長が提唱したもので、5月の研修会では「白蟻」を題材に開催した。

「ネットなどを検索すれば一通りの知識は得られるのですが、木造ハウジングコーディネーターのテキストには白蟻の習性や予防法、駆除の方法など、ネットには書かれていない情報が詳細に記載されています。お陰で白蟻の知識を共有することができ、若手営業マンもお客さまへの説得力が増したようです」

以前には制震住宅や他社との競合対策をテーマに開催し、社員の資質の向上に寄与しているという。

### メールなどを駆使して効率営業を展開 紹介が紹介を呼ぶ伊藤流の住宅営業術

住宅営業は時間との勝負という一面を持っている。伊藤・所長はメールやラインをフルに活用し、接客のお礼メールを発信する。商談中のお客さまにはラフスケッチや図面類、土地情報を、受注したお客さまには建設中の現場の進み具合の画像などを添付してメールで送っている。

「日中にお客さまの奥さまが一人で在宅している時に伺ったりするほか、夕食時に訪問することを嫌うお客さまが増えています。その点、メールやラインを活用して書類などを送り、コミュニケーションを図ることは、家事や育児などで忙しい奥さまにとって簡単に情報に接することができ、建築中の自宅なども確認でき、ありがたがっておられるようです」と力説している。

お客さまと時間を調整して商談し、事務所でプランや見積もりなどを作成して提示するという従来の一般的な営業手法より、何倍もスピーディーに事が進む。伊藤・所長は、「効果的であることは間違いありません。住宅営業

は夜遅くまで仕事を続けるというのが定番になっていますが、情報機器の活用が私たちの働き方改革の一端にもなるのではないのでしょうか」とも語っている。

こんな伊藤・所長、IT機器に頼りっぱなしではない。お客さまとの初回面談時には、名刺とともにA4版2枚の自作の自己紹介書を手渡すことを常としている。

「はじめましてホームエンジニアの伊藤優也です」と大きく書かれた手作り感いっぱいの表面には、プロフィールや趣味、木造ハウジングコーディネーターなどの取得している資格が似顔絵とともに記載されている。裏面にはサーラ住宅の家づくりや特徴が説明されており、別の1枚にはコンサルティングの中身、仕事のやりがいなどが簡単に書かれている。

「自分のことをお客さまの皆さんに知っていただきたいと考えて、配布させていただいています。商談に入る前に2枚の自己紹介書で話が盛り上がってしまうこともあります」と笑う。

### 感謝、素直・謙虚でお客さまのお役立ちを 子供が入社したくなる住宅企業に成長が夢

伊藤・所長の自慢は契約棟数だけでなく、年間受注の半数近くが紹介受注ということ。サーラ住宅の営業職のなかでもトップクラスを誇り、「契約をいただいた展示場来場者から会社の同僚やご親族を紹介していただき、さらにその方からお子さんの家づくりも担当させていただきました。嬉しかったですね」と目を細める。

毎日の仕事上で心掛けていることは、「感謝して、素直・謙虚になり、お客さまにお役立ちを」ということ。かつて上司に言われた言葉だそうで、毎日の始業前に必ず自分に言い聞かせているという。

火・水が休日で、城巡りや気分転換のサイクリング、サッカー観戦などを楽しんでいる。最近では日帰り温泉に凝っており、湯上りに孫氏の兵法などを読んでいる。

インタビューの最後に伊藤・所長の夢を聞いてみた。「住宅営業の仕事は楽しくて仕方がありません。50周年を今年に迎えたサーラ住宅を次の50年後も住宅事業を続けている会社で成長させ、自分の子供が勤めたいと思えるようなトップ企業にしたいですね。プライベートでは妻とゆっくり海外旅行に出かけたいと考えています。実現は何時になるか分かりませんが…」と語る伊藤・所長に、住宅営業に真摯に取り組む姿勢を見て取った。



# 日本の世界遺産 探訪

## SHURIJO CASTLE

「琉球王国のグスクおよび関連遺産群」は、2000年に日本で11件目の世界遺産に登録されている。グスクとは、一般に城(しろ)と訳されるが、信仰の聖地である御嶽(うたき)も含まれており、沖縄県の各地に点在する琉球王国時代の遺跡のことを指すと言って良いだろう。

今回の世界遺産探訪は、「グスクの中のグスク」と呼ばれ、琉球王国の政治・外交・文化の中心として威容を誇った「首里城」についてご紹介しよう。



# 沖縄県那覇市 首里城

## 米国植民地時代から

### 沖縄観光の象徴であった「守礼門」

かつて沖縄の人々から「御城(うぐしく)」と呼ばれ、敬愛のまなざしで見上げられた「首里城」は、15世紀初めから19世紀末まで、450年余にわたって「尚氏王統」の宮殿として、華麗なる歴史の舞台となった。1945(昭和20)年の沖縄戦により全焼し、戦後は



園比屋武御嶽石門

琉球大学のキャンパスになったが、大学移転後に復元事業が推進され、城壁を巡らした小高い丘の上に鮮やかな朱色に彩られた正殿を配した現在の「首里城」の勇姿が蘇った。中国と日本の築城文化を融合させた独特の建築様式と石組み技術は、沖縄独自の様式美として訪れる人の目を楽しませてくれる。

これに先立ち、1958(昭和33)年、米国植民地時代の沖縄で真っ先に復元されたのが「守礼門」である。中国風の牌楼(ぱいろう)という形式で建てられており、門に掲げられている扁額(へんがく)には「守礼之邦(しゅれいのくに)」と書かれている。「琉球は礼節を重んずる国である」という意味で、赤と白のモザイク模様の瓦屋根、二層の屋根の配置の妙、どっしりした上部を支える四本柱がエレガントな雰囲気醸し出し、長く沖縄観光の象徴とされた。

### 赤い彩色とたくさんの龍の装飾が印象的な「首里城正殿」

「首里城」の城郭内の建物は、1992(平成4)年、沖縄の本土復帰20周年を記念して国営公園として復元された。「守礼門」から始まる参道を歩くと、「歓会門」があり、左右にシーサーと呼ばれる魔除けの獅子の石像が出迎えてくれる。これが、城郭の正門である。そして、曲がりくねった堅固な石垣に沿って階段を登っていくと「瑞泉門」「漏刻門」「広福門」と続く。最後の門「奉神門」で拝観料を払って中に入ると、いよいよ正面に「首里城正殿」の威容が見えてくる。

「首里城正殿」は、琉球王国の支配の象徴として国殿また

は百浦添御殿(ももうらそえうどうん)と呼ばれた沖縄最大の木造建造物である。建物は二層三階建て、赤瓦葺き入母屋造り、北京・紫禁城の太和殿を模しており、最も格調が高い中国式客殿である。しかし、正面にあ

る八の字型の階段や龍柱は中国にも日本にも例を見ない琉球独自の様式となっている。鮮やかな赤い彩色と、いたる所に龍が描かれている装飾は、圧倒的な存在感で琉球文化の様式美を際立たせている。正殿に向かって、右側に南殿、左側に北殿があり、これらに囲まれた中庭を「御庭」(うな一)という。この広場には磚(せん)と呼ばれるタイル状の敷き瓦が敷かれており、色違いの列は儀式の際に諸官が立ち並ぶ目印とされていた。

また、「首里城」の城郭内には、御嶽(うたき)と呼ばれる聖地が点在する。天神が降り立った場所とされる「首里森御嶽」(すいむいうたき)、安全祈願にご利益がある「園比屋武御嶽石門」(そのひゃんうたきいしもん)は、霊験あらたかなパワースポットとして人気が高い。

### 世界遺産「琉球王国のグスクおよび関連遺産群」登録概要

構成資産：今帰仁城跡、座喜味城跡、勝連城跡、中城城跡、首里城跡、園比屋武御嶽石門、玉陵、識名園、斎場御嶽

所在地：沖縄県国頭郡今帰仁村、中頭郡読谷村・北中城村・中城村、うるま市、那覇市、南城市

記載年：2000(平成12)年

区分：文化

遺産区域：構成資産55ヘクタール、それを保護する緩衝地帯560ヘクタール

登録理由：1.琉球王国が数世紀もの間、東南アジア、中国、朝鮮半島、日本と経済的、文化的交流の中心地となり、その文化を発展させてきたことがうかがえること  
2.グスク跡は琉球社会の象徴的な考古学的遺跡であり、今なお先祖への崇拜と祈願を通して地域住民の心のよりどころになっていること

# 12府県と木造応急仮設住宅の建設に関する協定を締結

## 市川会長や越海専務らが協定書に署名・交換

### 全都道府県と締結を目指し、マニュアルなど充実へ

地震や豪雨災害など万一の場合に備えて、自治体と木住協との間で木造応急仮設住宅の建設を可能とする建設協定の締結が着実に進んでいる。2019年に入って大阪府との間で締結したのを皮切りに、3月に愛媛県、4月に岐阜県、5月に徳島県、6月には高知県と香川県とも建設協定を締結した。これで先に締結していた静岡県、福岡県、熊本県、和歌山県、神奈川県、山形県を含めて全国12府県との間で建設協定を締結したことになる。締結では木住協から市川晃・会長や越海興一・専務理事、和田賢・運営委員長らが出席し、各府県の知事や副知事らと協定調印式を行った。



香川県との調印式

6月25日に香川県との間で行われた「災害時における応急仮設住宅の建設に関する協定」の締結式は、市川・会長と浜田恵造・香川県知事が出席した。午前10時から知事応接室で行われた締結式では、初めに浜田・知事が「懸念

されている南海トラフ地震が発生した場合、多数の住宅が被災して多くの被災者が避難生活を余儀なくされると予想され、生活の基盤である居住環境の確保が重要と考えています。今回、このような建設協定が締結されることは誠に心強い限りです」と挨拶した。



愛媛県との協定締結では、関係者とともに記念撮影に応じた。前列左が神野・副知事

に心強い限りです」と挨拶した。

これを受けて市川・会長は、「木住協は東日本大震災の時に約1,600戸の木造応急仮設住宅を建設した実績を持っています。会員には建設企業だけでなくプレカット企業や資材メーカー、建材流通企業など600社以上が加盟しており、いざという時には木造応急仮設住宅の建設に大いに力を発揮できると自負しております」と述べ、浜田・知事と市川・会長が揃って協定書に署名した。





岐阜県との協定締結後に市川・会長(右)から  
木造応急仮設住宅の説明を受ける古田知事(左)

その後、知事と会長が協定書を手に持ち、揃って記念撮影に応じた。協定の内容は、災害救助法に基づき県からの要請に応じて、木造応急仮設住宅の供給に際して木住協会会員である住宅建設業者の斡旋などの協力を行うとしている。建設可能戸数は四国地域で、万一の災害発生後1 ヲ月で約500戸を見込んでいる。

#### 四国の4県とはすべて協定を締結

香川県との建設協定締結に先立ち、3月26日には愛媛県との間でも協定を締結し、神野一仁・愛媛県副知事と越海・専務が協定書に署名した。

愛媛県では昨年の西日本豪雨災害で全・半壊が約4,000棟、床下浸水も約3,000棟の被害を被った。このため挨拶に立った神野・副知事は、「南海トラフ地震が発生した場合、県内だけで約6万戸の応急仮設住宅が必要と想定されており、応急仮設住宅の供給体制の確保が喫緊の課題になっています。今回の協定が万一の際の被災者の皆さんの安心・安全の確保、

迅速な復旧・復興につながると考えており、大変心強い」と述べた。

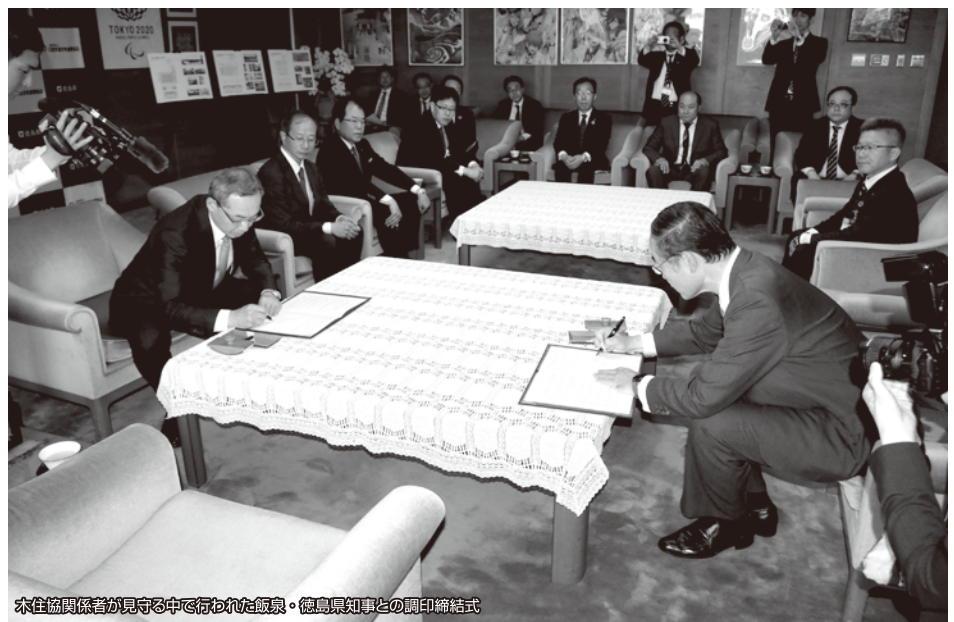
協定の調印は事前に中村時広・知事と市川・会長の間で署名されており、この日の調印式では神野・副知事と越海・専務が立会人となり協定書に署名した。越海・専務は、「木住協は全47都道府県との間で建設協定の締結に取り組んでおり、万一の災害時にはバックアップ体制に万全を期してまいります」と語った。その後、神野・副知事と越海・専務を中心に、締結に尽力した木住協関係者も加わって記念撮影を行った。

#### 中部4県で6 ヲ月間に約5,000戸を建設

岐阜県との建設協定締結は、県内で豚コレラが発生したため当初の予定日から順延され、市川・会長や越海・専務、和田・運営委員長のほかに三木亨・中部支部長や若山文則・中部支部運営委員長らが参加して4月17日に行われた。席上、古田肇・岐阜県知事と市川・会長がそれぞれの協定書に署名、相互に交換して2通目にも署名した。

古田・知事は、「東日本大震災の時に木住協が建設した応急仮設住宅の住み心地が良く、被災者の方々から好評だということを伺っています。中部4県で万一の場合、6 ヲ月間で約5,000戸の供給能力があると聞き、大変に心強く嬉しく思っています」と挨拶した。古田・知事らは記念撮影の後、東日本大震災時に木住協が建設した木造応急仮設住宅を説明したパネルを見学し、市川・会長が間取りや建設時の苦労などを説明した。

引き続き5月16日の午前11時すぎから徳島県との建設協定の締結式が開催され、市川・会長と飯泉嘉門・徳島県知事が木住協の関係者が見守る中でそれぞれ2通の協



木住協関係者が見守る中で行われた飯泉・徳島県知事との調印締結式



終了後には地元記者たちからの追加質問に回答した

定書に署名し、交換した。

市川・会長は、「万一の際の木造応急仮設住宅の建設には木住協として最大の努力を行います。また、防災に関わらず木造住宅の建設、街づくりに木住協を挙げて取り組んでまいります」と述べ、飯泉・知事も「仮設住宅の建設用地を事前に決めておき、災害が発生した場合には早期に木造応急仮設住宅を建設できるよう復興指針などを定めているところです。徳島県には中央構造線が東西に走っており、備えを十分にしたいと考えております。万一の際には被災者の皆さんに快適に住んでいただけるよう、木造化を進めていきたいと考えています」と語り、同席していた徳島県内のメディアの記者からのカメラ・フラッシュを浴びていた。

締結式の終了後、市川・会長と越海・専務は記者からの追加質問に応じ、木住協の目的や会員数、具体的な応急仮設住宅の建設方法などについて回答していた。

高知県との建設協定締結式は6月4日午後に高知県庁土木部長室で行われ、越海・専務と村田重雄・高知県土木部長が、事前に持ち回りで署名された



高知県では協定書の交換後に越海・専務と村田・土木部長が握手を交わした

尾崎正直・高知県知事と市川・会長の協定書を交換した。締結式には木住協側から6月26日に開催された四国支部の設立総会で支部長に選任された栗原健志・住友林業(株)住宅・建築事業本部松山支店長や県幹事の岡崎秀悟・シューハウス工業(株)代表取締役社長らも参加し、協定書の交換を見守った。

席上、村田・土木部長は、「南海トラフ地震が仮に発生すると(高知県下では)大きな揺れや津波によって約10万世帯が被災し、2万戸の応急仮設住宅が必要と試算されてい

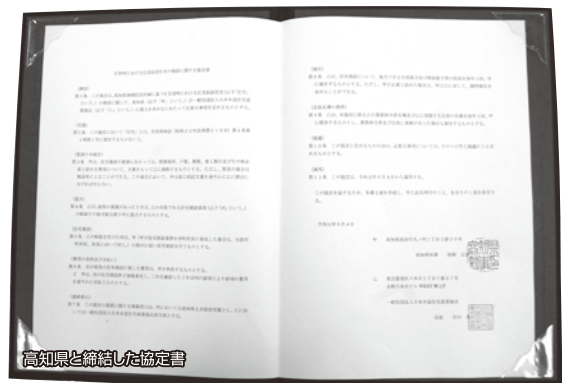
ます。全国組織である木住協との建設協定締結は、被災後の大きな備えになるもので心強く感じています」と述べ、木住協の木造応急仮設住宅の建設に期待を表明した。



木住協と各自治体との建設協定締結は、複数の団体と設立した建設協議会への参画による協定締結(静岡県と和歌山県)を含めると12府県となり、改正災害救助法で救助実施市に指定された横浜市と川崎市、相模原市とも4月1日付けで締結(神奈川支部の支部だより参照)しており、すべてを合わせると12府県3政令指定都市となった。

木住協では6月26日に四国支部の設立総会を愛媛県松山市で開催したが、設立総会に先立って市川・会長らが中村・愛媛県知事を表敬訪問し、協定締結が無事に終了したことに感謝した。

今後は47都道府県すべてと同様の建築協定の締結を目指しており、準備が整った都道府県から協定を締結することになっている。また、万一、災害が発生した場合の初動対応や実際の木造応急仮設住宅の建設などについて、具体的な行動マニュアルなどの整備を急ぎ、被災後の安心した生活を確保することになっている。



高知県と締結した協定書



## 2019年度 「住宅税制改正セミナー」+「ライフプランを踏まえた 住宅資金計画と最新情報」を開催

北海道支部では、昨年に引き続き5月27日(月)に札幌市内(札幌駅前ビジネススペース2A)で、2019年度「住宅税制改正セミナー」+「ライフプランを踏まえた住宅資金計画と最新情報」を開催し、会員企業6社19名が参加した。

### 税理士の下平氏や支援機構担当者が講師に

第1部の「住宅税制改正セミナー」は、木住協 顧問税理士の下平先生が講師となって、2019年度 住宅税制の改正点を中心に住宅営業として知っておかなければならない部分を重点に説明を受けた。

2019年度 住宅税制の主な改正点が10月からの消費税率引上げに伴う住宅取得支援策であるため、参加者は住宅営業のプロとして真剣にセミナーに臨んでいる姿が印象的であった。また、住宅税制は、ケースバイケースで、対応する減税措置が変わったり、控除額が違っていたりするため、全部を頭に叩き込むのは難しく、各自が備忘録として、テキストの「住宅と税金 2019年度版」にメモを書

き込む方が多く見受けられた。

第2部の「ライフプランを踏まえた住宅資金計画と最新情報」では、ご当地の住宅金融支援機構 北海道支店より吉田 道秀 氏に講演いただき、実際にローンシミュレーションの操作体験も行った。地元北海道支店からお越しいただき、困った時は相談に乗っていただけるとの話に参加者は皆、心強く思ったのではないだろうか。

青木研修部長の話では、木住協が、住団連と連携して毎年発行している「住宅と税金 税制ガイドブック」も今年で19回を数え、業界での認知度も高まっている。

今回は、同会場(札幌ビジネススペース)にて6月25日(火)に既存住宅状況調査技術者講習を開催する。



熱心に聞き入る支部会員

# 三陸沿岸地域(宮城県～岩手県)被災地を巡る

東日本大震災より8年が経ち、宮城県では、震災復興計画の「発展期」(平成30年度～令和2年度)の2年目となり、復興の総仕上げに向けた3年間でスタートしました。

今回は被災地の現状をみるべく、令和元年6月4日(火)、5日(水)に震災津波被害が甚大だった三陸沿岸部を視察した。

## 『気仙沼市(東日本大震災遺構・伝承館)』2019年3月10日オープン

所在地：宮城県気仙沼市波路上瀬向9-1

2011年3月11日発生の東日本大震災による大津波とその大規模な火災は、死者1,152人(震災関連死を含む)行方不明者214人に上る最大級の悲劇を気仙沼市にもたらしました。

気仙沼市の東日本大震災遺構・伝承館は、将来にわたり震災の記憶と教訓を伝え、警鐘を鳴らし続ける「目に見える証」として活用し、気仙沼市が目指す「津波死ゼロのまちづくり」に寄与することを目的としています。(気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館リーフより引用)



**震災遺構(気仙沼向洋高校旧校舎)**

冷凍工場の激突跡：高さ10メートルを超える津波で流されてきた冷凍工場が、南校舎4階のベランダに激突しました。壁面は損壊し、激突した方向に折れ曲がっています。屋上には教職員をはじめ50名近くの方が避難していたことから、正面衝突を免れたのは不幸中の幸いでした



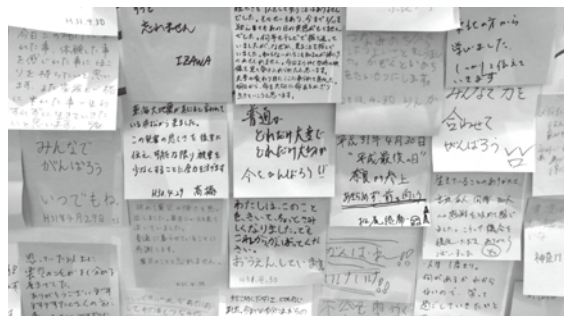
**折り重なった車**

津波は第1波、第2波、第3波と次々と襲い、その度に強力な「引き波」が地上のものを海へと引きずり込みます。ここは引き波の通り道となり、流されてきた家屋が、北校舎と生徒会館の間に挟まり、宙に浮いた状態となったものです



**津波によって運ばれてきた車**

津波によって高さ8メートルの校舎3階の電気磁気室まで流れつきました



**来館者メッセージ**



## 『東松島市震災復興伝承館』

所在地：宮城県東松島市野蒜字北余景56-36

震災復興伝承館では震災前の東松島の姿、震災が残した爪痕、復興の過程を通し、後世に震災の記憶を伝えていきます。



旧野蒜駅舎



伝承館外観

※当時の津波の高さが分かるようにしてあります



震災時の様子

## 『南三陸町防災対策庁舎』

所在地：宮城県本吉郡南三陸町志津川字塩入77

海岸から約600メートル地点に建つ庁舎は、高さ15.5メートルの津波により、第1庁舎および第2庁舎は流出し、防災対策庁舎は骨組みと各フロアの床および屋根等を残し破壊されました。



南三陸防災対策調庁舎

### 海側

10メートルほどかさ上げをした「南三陸さんさん商店街」より撮影  
※前方の海は志津川湾

撮影日同日、日本相撲協会は、東日本大震災からの復興を祈願するイベントを宮城県南三陸町で行い、大相撲の横綱鶴竜関が総合体育館で約1500人に鎮魂の土俵入りを披露した

## 『奇跡の一本松』

所在地：岩手県陸前高田市気仙町字砂盛176-6

太平洋につながる広田湾に面した高田松原は、350年にわたって植林されてきた約7万本の松の木が茂り、日本百景にも指定されていた景勝地であったが東日本大震災による津波の直撃を受け、ほとんどの松の木がなぎ倒されて壊滅したなか、一本の木が津波に耐えて、立ったままの状態が残ったことから、この木は震災からの復興への希望を象徴するものとしてとらえられるようになり、「奇跡の一本松」と呼ばれるようになりました。

松の背後に写っている建造物は高さ12.5メートル、長さ2キロメートルにも及ぶ防潮堤の一部です。

また、一本松を有する「復興記念公園」が東京2020オリンピック聖火リレーのルートに選出されました。



奇跡の一本松

# 支部活動やリフォーム実例などを来場者に紹介 「かながわ家づくりフェア2019」に支部ブースを出展

支部会員2社も出展し、木造住宅の良さをPR

神奈川支部は横浜市西区のそごう横浜店9階の新都心ホールで5月25日(土)に開催された「かながわ家づくりフェア2019」(主催:神奈川県、かながわ木づかい推進協議会、神奈川新聞社)にブースを出展し、木住協と神奈川支部の活動内容や木優住宅、省令準耐火構造、木造ハウジングコーディネーター、木住協リフォーム支援制度の仕組みや利点などを来場者に紹介した。ブースには木住協の主要な事業を紹介するパネルのほか、支部会員各社の商品パンフレットが並べられ、各社から提供されたノベルティー商品を配布し、来場者からの住宅相談にも応じるなど告知活動を展開した。

この「家づくりフェア」は、例年この時期に開催されているイベントで、「木をつかって森づくり」をテーマに午前10時30分から午後5時まで開催した。支部会員の㈱市川屋が県産材やプレカット加工技術を紹介し、神奈川エコハウス㈱も県産材と自然素材を活用した健康住宅を紹介した。神奈川支部と両社を含め、フェアには18社が独自のブースを並べ、各社独自の家づくりやリフォーム実例、木を活用した玩具などを紹介した。設計事務所経営者が講師となって家づくりセミナーも実施し、同時開催として地下1階で県産木材の紹介や神奈川県の水源環境を守る取り組みなども紹介した。

## 来場者に丁寧に対応、入会促進活動も

神奈川支部のブースでは、支部会員の1社である㈱中鉢ホームの浅葉忠志さん(一級建築士)、松田尚之・支部事務局長らが来場者の一人ひとりに対応した。開場と同時に多くの来場者が訪れ、このうち60歳代の男性は「木住協って、どんな組織なのか」と質問。50歳代の主婦は「床のフローリングが傷ついてしまい、どのように直したらよいのか。リフォームを検討したいが、どこに依頼すればよいのか分からない」と相談し、浅葉さんらが親身になって回答していた。

今回のフェアでは30歳代から40歳代の若い来

場者が比較的多く見られ、住宅取得の具体的な方策や住宅ローンの利用、相続といった質問が寄せられた。支部会員が提供したノベルティー商品が残り少なくなる一幕もあり、消費税率のアップを前にして若年層を中心に住宅取得を急いでいる傾向も見られたという。午前中には副支部長の中鉢悟・中鉢ホーム社長も応援・視察に訪れ、担当者を激励した。

来場者に対応した浅葉さんは、「ご家族で訪れた来場者も多く、若年者からは住宅取得法を、高齢者からはリフォームの相談が比較的多く寄せられ、根強い需要を感じました。神奈川支部や木住協の活動のほか、安心・安全な住まいづくりの大切さを来場者の皆さんにお伝えすることができました」と語っていた。

松田・事務局長も「リフォームを検討しているお客さまは、どこに相談に行ったらよいのか、費用、工事の手順などが分からないようで、今後、こうしたお客さまに十分に対応していきたいと思います」と語り、木住協に加盟していないフェアに参加した各企業に、木住協のパンフレットを配布するなど入会促進活動も行った。

来場者に対応した両氏は、「今後も木住協や神奈川支部の活動を通じて木と木造住宅の良さをアピールしていきたい」と口を揃えていた。



会場では親身になって相談に応じた





# 神奈川県と横浜市、川崎市、相模原市との間で 新たな応急仮設住宅の建設協定を締結

## 万一の場合、県の広域調整の下に迅速に木造応急仮設住宅を供給へ

神奈川支部は、4月1日付けで神奈川県(黒岩祐治知事)と横浜市(林文子市長)、川崎市(福田紀彦市長)、相模原市(加山俊夫・前市長)との間で、災害救助法が適用される大規模災害に備えた「木造応急仮設住宅等の建設」で協定を締結した。昨年5月に神奈川県と同様の協定を締結していたが、改正災害救助法が同日付けで施行され、3市が新たに救助実施市に指定されたことから、県と3市との間で今回の拡大した形での協定締結となった。これに伴い、神奈川支部と県の間で締結していた従前の協定は廃止された。

### 改正災害救助法の施行で4月1日に新協定

県と3市との間で締結された新協定は全12条で構成され、万一、大規模災害が発生した際に、3市からの要請に基づき神奈川県が木造応急仮設住宅の①建設場所②必要戸数③規模④着工期日——などを神奈川支部に連絡する。災害がそれぞれの市内で発生した場合は、各市が直接、神奈川支部に同様の要請を行うとされている。

県及び3市から建設要請を受けた場合、神奈川支部は会員企業の斡旋や木造応急仮設住宅の建設を行うことになっている。神奈川支部には建設能力の状況や業務担当部署などの名簿の提出が義務付けられている。

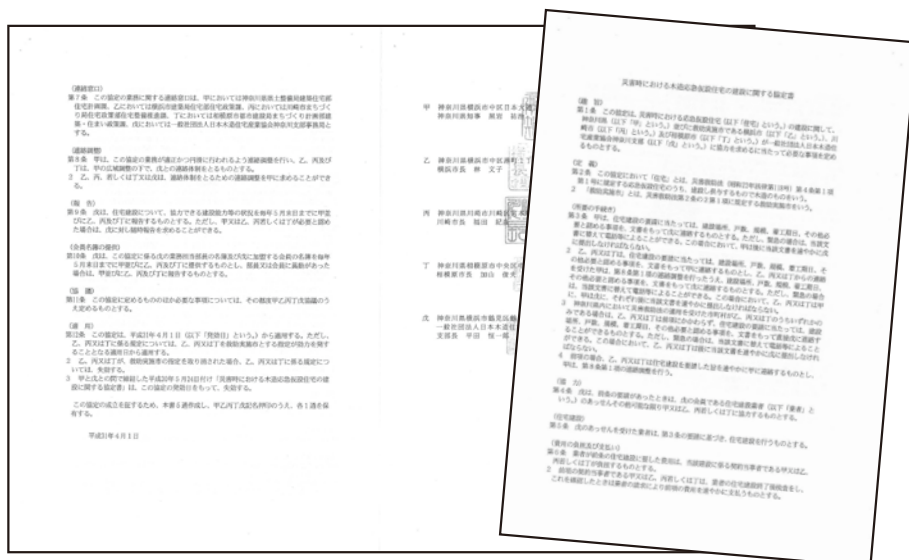
今回の県と3市との協定締結では救助主体が複数存在することになるが、県の広域調整の下で公平・迅速な救助が行えるよう「災害救助に係る県資源配分計画」を踏まえ、木造応急仮設住宅の建設に尽力することになる。

### 6ヵ月以内に約6,000戸を建設可能

昨年5月の県との協定締結で、神奈川支部では「県内には木住協会員の木材市場やプレカット工場もあり、災害時に迅速に木造応急仮設住宅の建設に着手できる。1ヵ月以内に約1,000戸の建設が可能で、万一の場合、被災者のお役に立てるよう県と協力していく」とコメントを発表していた。

新協定締結で、神奈川支部では、「6ヵ月以内に木住協だけで約6,000戸の供給が可能」としている。木住協本部と神奈川支部では、今後、初動マニュアルの確認や具体的な供給体制の検証などを進め、万一の場合に備えることにしている。

今回の協定締結によって神奈川県と3市では、木住協神奈川支部のほかに住宅7団体との間で応急仮設住宅の建設や応急仮設住宅の借り上げ、被災住宅の応急修理、住宅敷地内の障害物の除去で協定を締結したことになる。



# 静岡県支部会員交流会を開催

## ～訪問交流記「ノダ編」～

海風に吹かれ、涼しげな風鈴の音が聞こえる季節となりましたが、会員各位におかれましては、如何お過ごしでしょうか。

時代は令和に移り、その初回としてお届けする今号の支部だよりは、「ノダ」の清水ショールームにて行われた、静岡県支部・一種会員と二種会員の訪問交流記です。

「清水」といえば、昭和の時代では、映画スター・片岡千恵蔵が演じるキャラクター・清水次郎長が登場する、任侠清水港など、映画の舞台としての「清水」、そして平成の時代になんて、ちびまる子ちゃんの舞台としての「清水」、続いて、91年のJリーグ設立に際して誕生した清水エスパルスのホームグラウンドとしての「清水」など、「清水」は常に時代の先駆けとして、各世代に知られている街だと思ひます。

その清水に位置するノダ・清水ショールームは、全国七カ所に開設しているショールームとして最古であり、かつ、最大の施設とすることで、近隣にこうしたショールームのある静岡県支部は、恵まれた環境にあります。

今号では、全国の会員各位宛に、恵まれた環境にある静岡県支部の自慢話……ではなく、支部二種会員である「株式会社 ノダ」の清水ショールーム訪問記をお伝え致します。

### 1、充実した商品群を一望する

「株式会社ノダ」は、明治35年に野田材木店として創業され、大正10年に野田製材所に商号変更し、続く昭和17年には野田合板株式会社となつて、平成元年に入り「株式会社ノダ」に商号変更して現在に至ります。こうした沿革を追っていただけても、木材を活かした建材メーカーの老舗であることを、良く理解することができます。

そして令和元年を迎えた5月、静岡県支部最初の訪問先が、時代の節目ごとに足跡を残して発展していくノダが開設する清水ショールームとなつたことは、当支部にとって、新時代の幕開けに相応しく、幸先が良いスタートとなりました。

その清水ショールームには、東名高速道路静岡インターチェンジから、初夏の陽気に誘われてドライブするにはもってこいの、海沿いを走る国道150線、通称「イチゴロード」のロケーションを視界に納めつつ到着します。

早速、ショールーム入口からお邪魔すると、建物の奥まで続く展示ブースが目に入ります。それは、ノダの商品ラインアップの充実さを、そのまま表現しているように見えます。

画像1



ショールーム入口です。この位置から振り返ると、ノダの商品展示ブースが広がっています

### 2、商品名称からコンセプトを探ってみる

当日、木住協静岡県支部ではお馴染みの水口さん、そして、鍋田さんが御出迎え下さり、ショールーム案内をいただきました。

充実した商品群は、商品コンセプトとして纏められ、商品体系が分かり易く、訪問者が自ら「お気に入りの逸品」を選定できるショールームというのが、第一印象です。

そんな中で、一押しの「ビノイエ」と「アートクチュール」のご案内いただきました。

何かと商品名に拘る筆者ですが、ビノイエは美しい日本語の響きとして「美の家」としたのか、或いは、「美」という日本語と「ノイエ(ドイツ語で【新しい】の意)」を組み合わせたものではないか……。一方の「アートクチュール」は、きっと「アート(芸術・美術といった感性の具現化から間接的に社会へ影響を与えるもの)」と「クチュール(フランス語で【仕立て】の意)」を組み合わせる名付けられた商品だろう……。などと、勝手な想像をしながら、美しい表面仕上げがされた建材製品の数々を、参加者一同とともに興味深く拝見すべく、いよいよ内覧スタートです。

画像2



「ビノイエ」シリーズの建具種類を示すパネル前で、鍋田さんから商品構成の説明を受ける参加者です



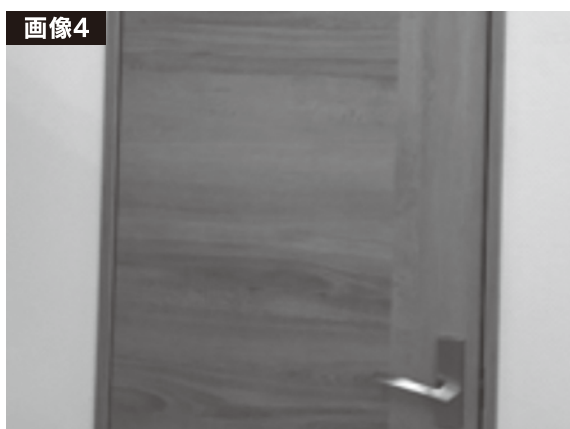
### 3、建具

ビノイエシリーズの、建具製品から内覧が始まりました。豊富な種類に、建具の内法高さのラインアップなどのご説明を頂戴しました。



天井高さ一杯に造作枠を用意して吊り込みするドアも用意されています

最近の住宅設計の場面では、色だけでなく空間構成にも拘りを持つクライアントに出会うことがあり、天井一杯まで建具が届く演出提案は、その決め手として有効です。殊に、こうした拘りには、少し変わったアクセントを建具そのものにも求めることとなり、四周に框の廻ったドアでは「普通」過ぎるとの評価から、定常では難しい仕上がりを求められこともあります。



ドアノブのある框部分とドアパネル部分が面一になっている様子。二枚の木目シートの貼り合わせではなく、一枚シートで仕上げられており、さらに、ドアの木端まで及んでいます

そんな時「画像4」に示す、片方にだけ縦框のあるドアは、他に無い、特別なディテールの提供を叶えてくれます。

こうした建具バリエーションから、クライアントが自分だけの逸品を見出すには、かなり具体的なイメージを持っていなければなりません。設計者からクライアントに提案し易いような配慮していただいているのか、大きなショールームには、多様な想定による空間の演出を施したブースが用意されています。

例えば、「画像5」のように、その室の利用者となる「お子様」が、旅客船の客室や潜水艦の艦内に居るような空想しながら在室でき、一方で、子供を見守る「お母さん」が「まだ起きているのかな？」と、さり気なく子供の在室確認のできる

建具として「丸い小窓を持つドア」を持った子供室のイメージを、具体的に示しつつ、打合せの中で提案できる展示空間といえます。



丸い小窓でしゃれた演出をイメージできるのも「ショールームブースならでは」といえます

さらに細かなディテールを実物に触れながら確認することは、設計者がショールームを訪れて行うべきことですが、中でも、クライアントに対するインテリア提案の要となる「色」を伴う「質感」を確かめることは、重要な要素です。

ショールームの中で確かめることのできることを挙げると紙面が足りなくなりそうなので、色と質感を示す代表的なものをご紹介しますとすれば、いつも目に留まり、実際に触れる「ドアノブ」が適切なものと思います。

それを白黒画像ではお伝えし難いのですが、「画像6」に示すように、建具の仕上げに見合う、鋳物に見える仕上げをもったドアノブを挙げることができます。

自身の目と感触で確かめることができるのは、ショールームだからこそできるものです。



鋳物を表現する塗装仕上げのドアノブを画像に示します。歴史を積み重ねた古民家風、または、カントリー調の建具色に似合うマット仕上げのドアノブです

ブースのそれぞれに組み入れられた建具の数々を見ていくと、改めてノダの展開する商品バリエーションの豊富さに驚かされます。これだけ広いショールームであっても網羅仕切れない様子ですが、設計者が自分の頭の中で、クライアントの要望を整理して、具体的にイメージするとき、とても役立つ空間であることは、間違いありません。

#### 4. 床材

「此方は、突板のフローリングです。楡の木を使っています」とご案内いただいたブースに張られた床材は、天然木の自然な風合いの「**ラスティックフェイス リッチ**」ベース」という商品でした。

基材に国産の合板を用いており、天然資源の活用と、これに伴う地球温暖化防止や持続的な森林資源の維持といった、社会的要請に応えるだけでなく、単調でないその木目は、一つの「床面」に幾つもの表情を醸し出し、空間に身を置く人に、味わいのある奥深い印象を与えてくれます。その一方で、天然木を使っているからこそ得られる自然な風合いを、欠点として見做すクライアントも存在している様子ですから、こうしたクライアントによる様々な価値観に対応できるように、数多くの知見を持つことも、設計者には求められていると感じます。

そうした視点で、冒頭に記した「楡」という樹種から、製品の特徴を説明し、「木質建材」の持つ意義をクライアントに伝えていくことは、設計者と建材メーカーの双方で協力することが重要だといえそうです。



楡(ニレ)の床板を見たのは初めてです。「銘木」と言っても過言ではない木目の美しい床板です

銘木は、その木目や空目を活かした空間創出に利用しますが、**ラスティックフェイス リッチ**」ベースを採り入れることで、多彩な空間の提案ができそうです。

次のブースでは、これも目を引く独特の木目を持つ床板の紹介をいただきました。

**アートクチュール**シリーズの「**アートクチュール・ゾン**」という化粧シート張りの床板です。

ブースに張られた柄は**アンティークオーク柄・ワイルドブラウン**色で、「少しうるさいかな？」といった雰囲気の木目ながら、若い世代のクライアントに人気があるもので、インテリアをアンティーク調に統一させるデザインをするには、他に無い床材です。これが「化粧シート？」という高度な仕上がりも見えて取れます。

それぞれのブースに備えられる品々には、品名を記すプレートが付けられており、この**アートクチュール・ゾン**も例にもれず記されていますが、そこには「45」の文字があります。そこで、静岡県支部切っの建築素材に詳しい一種会員から「この45は音のこと？」との質問が出されました。

これに対し、案内いただいた水口さんから、「その通りです。床衝撃音レベルでいわれるLL45です」との解説をいただき、マンション向けに用意された商材とのこと。

「サイズを示すには、合わないな・・・」なんて思いながら眺めていた筆者にとって、商品名の由来に拘りながら、これには気付かず、「プロの遣り取り」を聞くことができました。



「**アートクチュール・ゾン45**」と記されたプレート。アンティーク調の他には見られない木目の仕上がりだけでなく、まさに「適材適所」を示す商品名には、幅広い豊富な商材を用意している「ノダ」のさり気無い主張が感じられます

建具と床の二品目を見ただけでも、その種類の豊富さに驚かされるショールームですが、見せるだけでなく設計者や工務店の材料を発注する側の視点では「納期は大丈夫なのかな？」という素朴な疑問が出てきます。

その疑問に応える厳選された商品については、常時在庫がされ、凡そ、対応して頂ける体制にあるとのことでした。



**ビノイエ**シリーズの「即納商品」を示す展示パネル。「厳選」と記されているものの、それでも沢山の種類が用意されており、在庫管理の大変さを感じます。一種会員は、こうした努力に支えられているのだと、改めて感じました

#### 5. バリアフリー

ショールームでは、高齢者配慮の設計には欠かせない、バリアフリー体験ができるブースが開設されています。

設計者視点で驚かされたのは、設計図上では良く見かけるバリアフリー専用設計といえる建具構成であり、建具店へ特注品として用意して貰うものと思っていたものが、建材製品として用意されていることです。



トイレの開口を拡大させるべく、ドアと引き戸を直交させる計画は、現場納まりや工程管理等の点で施工者泣かせの「設計」ですが、それが「製品」として提供されるとなれば、工期短縮や現場施工図の作成手間を無くすなど、設計上の課題の解決も提供してくれます。そうした安堵感を感じさせてくれる、展示ブースでありました。



此方の建具が



出隅部分で分かれて開閉します



画面左側は引戸の組合せ、右側は、前出画像紹介の開戸と引戸の組合せです。これを開くと、左側の如く全開時はトイレ空間への入り口を大きく開くことができます。介助を要しない場面では、引き戸だけ、或いは、開き戸だけの動作も可能です。日常の清掃もし易いと思います

バリアフリーブースには、建具だけでなく、階段や床面等、高齢者配慮の視点で設計すべき事項が紹介されており、設計力を養う上で必要な事項が網羅されています。

続いて、鍋田さんがボーリング球を取りだし、高齢者等配慮建材のブース床にも張られている床材「**衝撃吸収フロア・ネクシオ**」のサンプルと通常型の床材を用意して、それぞれの上に落下させるデモが行われました。**衝撃吸収フロア・ネクシオ**における球の弾み方は、通常型の床材に比して、明らかに減じられているのが見て取れます。その**衝撃吸収フロア・ネクシオ**のサンプルには、球の落下痕が全くなく、衝撃吸収をしていることが、はっきりと分かります。

これは、不慮の転倒事故対策として、頭部へのダメージを減らすことを目的とした加工ですが、**衝撃吸収フロア・ネクシオ**には、併せて表面を滑り難くする加工もされており、転倒対策が施されています。

こうした衝撃吸収の床材は、一般に18mm厚以上のものが多く、階高設計や他の床材との平坦さを確保するための下地調整の施工計画を要するところ、**衝撃吸収フロア・ネクシオ**の厚さは13mmであるので、その影響を少なくすることができるメリットもあります。

画像11



バリアフリーブースにある階段の展示。良く見ると手すり上端と幅木の表面に蓄光材(あかりサポート)が施されており、消灯時でも、その位置を視認できます。これは高齢者配慮に留まらず、災害時避難にも役立ちます

## 6、令和の活動開始

清水ショールームには、ここでご紹介できなかった建材展示ブースが沢山あります。例えば、人だけでなく、室内犬や猫等のペットも快適に歩行できるフローリング材「**ネクシオウォークフィット**」をはじめとするペット用建材のブース、壁面にアクセントを与える「**ウォールデコ**」を施した内装空間のブースのほか、近年、住宅設計に採り入れられている「シューズクローク」の要望によって開発されたというクローク機能を併せ持つシューズボックスなど、**ビノイエ、アートクチュール**のシリーズを中心に配置されています。クライアントが要望する「あったらいいな」を見つけることや、木質材料の質感を確認するには最適な空間であると感じました。

今回、清水ショールームでご案内いただいた数々の木質建材の利用は、木造建築の可能性が広がる改正建築基準法の施行と相まって、地球温暖化防止活動の推進がされることと思います。

木住協静岡県支部の一種会員は、今回の訪問を通じ、国産材の活用から生まれる各種建材や、その他の木質材料を上手に採り入れることで、地球環境保全に繋がる活動をさらに進めて、地球温暖化防止活動の一翼を担えるよう努めて参りますので、木住協会各位におかれましては、令和の新時代の幕開けとともに、想いも新たに始動した静岡県支部に注目下さいますよう、宜しくお願い致します。

画像12



アートクチュールシリーズの各種部材で、様々な内装イメージが構成されたブースの説明を受ける参加者

## 2019年度 「住宅税制改正セミナー」+「ライフプランを踏まえた 住宅資金計画と最新情報」を実施

北陸支部では、4月26日(金)に金沢市内で、2019年度「住宅税制改正セミナー」+「ライフプランを踏まえた住宅資金計画と最新情報」を開催した。

### 支部会員が熱心に聞き入る

第1部の「住宅税制改正セミナー」は、木住協 顧問税理士の下平先生が講師となって、2019年度 住宅税制の改正点を中心に住宅営業として知っておかなければならない部分を重点に説明いただきました。

2019年度 住宅税制の主な改正点が10月からの消費税率引上げに伴う住宅取得支援策であるため、参加者は住宅営業のプロとして真剣にセミナーに臨んでいる姿が印象的でした。また、住宅税制は、ケースバイケースで、対応する減税措置が変わったり、控除額が違っていたりするので、全部を頭に叩き込むのは難しく、自分が使いやすいように、テキストの「住宅と税金 2019年度版」にメモを書き込む方も見受けられた。

第2部の「ライフプランを踏まえた住宅資金計画と最新情報」では、ご当地の住宅金融支援機構 北陸支店より佐藤武尊 氏に講演いただき、実際にローン

シミュレーションの操作体験も行った。地元北陸北支店から来てくれて、困った時は相談にもものっていただけるとの話に参加者は皆、心強く思ったのではないだろうか。

青木研修部長の話では、木住協が、住団連と連携して毎年発行している「住宅と税金 税制ガイドブック」も今年で19回を数え、業界での認知度も高まっている。

北陸支部において税制セミナーは、支部設立後、初開催であったが、早くも来年度のスケジュールを検討していきたいと考えておりますと長谷川事務局長談も聞かれた。



会場では支部会員がメモを書き込むなど真剣に臨んでいた



## 第30回

## 定時支部総会、開催される



平成31年3月22日(金)14時30分より、東京第一ホテル錦にて中部支部の第32回定時支部総会が開かれた。前年度の事業報告および収支報告、今年度の事業計画、新役員・委員などの承認などが滞りなく行われ、15時からは幹事会を開催した。

15時30分からは元日本テレビアナウンサーで、フリーアナウンサー、スピーチボイスデザイナーの魚住りえ氏を講師に迎え、講演会が開催された。

16時45分からの懇親会に先立ち、支部長の挨拶が行われた。

## 支部長挨拶

一般社団法人 日本木造住宅産業協会  
中部支部長 三木 亨

30年度はお陰様でこの業界についてはまあまあの景気であったと思っております。

来年度は、ご存知の通り新元号、また消費税の増税というところで先が読めない経済情勢だと思えます。その中で頑張っていくしかないのですが、そういった情勢の中で支部長をさせていただいて4年目になりました。木住協をどうしていこうかということ、最近はやっと冷静になって考えることができました。以前から木造住宅は地球に優しい、優良な財産だということを頭に置いてやっていきたいという風に考えております。

また、この1年大きな命題でございました応急仮設住宅でございますが、中部支部3県を受け持っておりますこの愛三岐が、岐阜県については矢橋林業様のお陰でこの4月締結をさせて頂く見込みになり、矢橋さんには本当に厚くお礼を申し上げたいと思います。

ただ残念ながらまだ愛知・三重については目途もたっておりません。来年度には締結に持って行けるよう進めていきたいと思っております。

本部全体でいきますと7都道府県で締結が終わり、遅れをとっておりますが、一生懸命頑張ってやっていきたいと思っております。これが木住協の当面の

一番の目標でございます。

2番目でございますが、会費を無くしたことです。幹事会社様は引き続きお支払いを頂くわけですが、木住協というのは住宅設備会社さんとか建築会社さんとか色んなところが入っている団体、集合体でございます。いわゆる縦の関係、横の関係、例えばライバル関係、こんな中でこの団体、協会ができております。ある意味違和感がある団体ではあるのですが、中部支部については、幹事以下非常に仲良くさせていただいています。先輩の方々がご尽力をいただいたおかげで今があると思っております。この関係をずっと続けるように、そのためにも今回の会費の無料化に大きく主眼を置いています。これからも是非皆様と業界を盛り上げるべく頑張っていきたいと思っておりますので、是非とも皆様ご協力いただいて、木造住宅は優良な資産であるということをもって、皆様と協力をさせていただいて、なおかつ木住協のブランド力のアップを図っていきたいと考えております。大変微力ですが、是非とも皆様ご協力をいただきたいと思います。



記念講演会

# 「声と話し方&聞く力を磨いて コミュニケーション力アップ」

元日本テレビアナウンサー／魚住りえ氏

通常総会の後、恒例の記念講演会が開催された。今回は、元日本テレビアナウンサーで、現在はフリーアナウンサーとしてテレビ、ラジオをはじめ、ボイストレーナー・スピーチデザイナーとしても活躍中の魚住りえ氏を講師にお招きし、「声と話し方&聞く力を磨いてコミュニケーション力アップ」というテーマでお話いただいた。

コミュニケーションは「話す」「聞く」この二つの車輪で回っている。

まず話す時に重要なのが「声と話し方と見た目」。これが人の印象の93%を占め、残りの7%が「話の内容」になるという。そこで良い声を出すボイスレッスン！横隔膜を上げ下げし腹式呼吸でたっぷり空気を使い、連続的にしゃべる、声量を上げていくのが決め手になるという。実際に会場の皆さんに声を出してもらい、「声を高めに、お口の部屋を大きく、頬の筋肉を使って！」などアドバイスを頂いた。

人前での打ち合わせ、プレゼン、スピーチといった時は、声を少し高めにすると声量も出て上手く聞こえる。また、顔や舌、口回りの筋トレはアンチエイジングにもつながるそうだ。

次に抑揚をつけて話すポイントは①伝えたい単語だけ音を高く話す。②ゆっくり話す。③強く発音する④思い切って伝えたい言葉の前に大きな間を取る。文章を読み録音して聞き返すと自分の喋りがよくわかるという。

今すぐできる話し方のコツは、話し始める前に一呼吸おく、長い文章は聞き手も喋り手も迷子になってしまうので、できるだけ短い文章で繋いでいく、そして「えー」をできるだけ言わないようにする事。また、話す時に緊張する人は話す前にはコーヒーや紅茶などカフェインを

取らないようにするのも有効だという。

そしてコミュニケーションのもう一つの柱「聞く」。今は昔と比べ「聞く力」が必要とされている時代。SNS等の発達により、人は性差も宗教も肌の違いも国も超え世界中の人と瞬時に繋がっている。一人ひとりとの関係が密になっている。人は誰でも世間から認められたい！という承認欲求があり、これを満たして話を聞いてあげる。これだけで、あなたの事を大切にしています！というメッセージは伝わる。その聞く時のポイントは相槌を打つ、話を繋いでいく、聞く時の態度としぐさに気を付けるといいという。反対にNGなのは人の話を遮ったり、人の話に被せて自分の話に持っていく、意味もなく笑いを入れながら聞く。これは相手に不快な印象を与えてしまう。聞き方の極意としては「相手の言葉を繰り返す、言い換える」「感情を込めてリアクションする」「途中で相手の話を否定せず最後まで聞く」など、聞く時の態度やしぐさにも気を付けて「自分はまだまだ何も知らない、まだ知らないことが山ほどある！」という気持ちでいると、どんな人の話からも学びを得ることができる。好奇心をもってワクワクしながら話を聞いていきたいですね」と話を結んでいただいた。自分のコミュニケーション力、話す・聞く力を見直す機会となる有意義な講演会であった。

## ＜魚住りえ氏 プロフィール＞

大阪府生まれ、広島育ち

1995年 慶應義塾大学文学部卒業

日本テレビにアナウンサーとして入社

「所さんの目がテン」「ジパングあさ6」「京都心の都へ」ナレーション等

2004年 フリーに転身。テレビ・ラジオ番組、CMのナレーション等で活躍

現在、30年にわたるアナウンスメント技術を活かし、「魚住式スピーチメソッド」を立ち上げ、ボイスデザイナー・スピーチデザイナーとして指導にあたる

## 懇親会

三木支部長の挨拶に続いて、住宅金融支援機構東海支店の河田崇支店長の乾杯のご発声で懇親パーティーの幕が開けた。多くの出席者で賑わう会場では、和やかな雰囲気の中、参加者各位が懇親を深め、有意義な時間となった。中江副支部長の中締めにより締めくくられた。



## ご出席いただいたご来賓の方々

＜国土交通省中部整備局 建設部＞  
住宅調整官 都築 克己様  
＜愛知県 建設部 建築局＞  
局長 海田 肇様  
＜愛知県 建設部 住宅計画課＞  
課長 成田 清康様

＜独立行政法人 住宅金融支援機構 東海支店＞  
支店長 河田 崇様  
＜一般財団法人 愛知県建築住宅センター＞  
理事長 祖父江 隆弘様

＜一般社団法人 日本木造住宅産業協会本部＞  
専務理事 越海 興一様  
運営委員長 和田 賢様  
資材・流通部長 青柳 博幸様  
研修部長 青木 広美様



# 第2回商品・技術勉強会を開催

中部支部では2月14日(木曜日)、サンゲツ中部支社ショールームにて第2回商品・技術勉強会を開催した。

## 第一部

(株)吉野石膏

『外壁下地用耐力面材 タイガーE Xボード』と『木造耐火と告示の仕様について』

石膏ボードの基礎知識から外壁下地用耐力面材のタイガーE Xボード、木造耐火建築物、タイガーF eボードの紹介していただいた。

タイガーE Xボードは石膏ボードの特徴である「防火性」「寸法安定性」「加工性」はそのままに、硬質せっこう板に高防水、高防カビ性能を付加し外壁下地用面材としての使用を可能にさせ石膏ボードの弱点であった「水に弱い」を克服させた商品だ。また耐力面材の湿気の通しやすさ(透湿性)は建物の耐久性を保つ上で重要なポイントとなるが、タイガーE Xボードはあらゆる耐力面材の中でも透湿抵抗が低く湿気をよく通す性質を持っている。

木造耐火建築物の項目では2010年の公共建築物木材利用促進法が出されて以降、国内における木造耐火建築物の棟数が年々増加している状況をデ-



ターで示し、今までRC造やS造で考えられていた建築物が木造に置き換わる現象が今後もある傾向にあることをお話をされた。

最後に新商品である「磁石がつく石膏ボード」タイガーF eボードの紹介があった。厚さが

12.5mmであり通常の石膏ボードと並べて使用することができクロス、ペイント仕上げの上から磁石で掲示物が取り付けられるという商品で画びょうが要らず、幼児、低学年の子供がいるご家庭での採用事例が増えているお話をされた。

軟水装置を搭載した戸建システムバスルームを新発売したハウステックは軟水で生活改善提案を進めていきますと勉強会を締めくくられた。



杉崎 和人氏

## 第二部

(株)サンゲツ

『住宅物件における機能性クロスの紹介』、『機能性ガラスフィルムの紹介』  
『カーテンはショールーム来場に繋げるサービスを紹介』



諏訪 あすか氏

第二部は株式会社サンゲツ中部支社ショールーム課 諏訪あすか氏より「住宅物件における機能性壁紙紹介」、「機能性ガラスフィルム紹介」の勉強会を実施した。

躯体の高機能化や多機能化に伴い、壁紙にも機能や付加価値を求められている機会が増加傾向にある中、【汚れやキズに】【快適なお部屋環境に】【湿気対策に】といった特にニーズの多い分野に対し機能性壁紙の紹介された。

汚れやキズに強い「フィルム汚れ防止・抗菌クロス」「スーパー耐久性クロス」を、汚れ落ち性能の実演等を踏まえながらご説明された。

また消臭機能がある「ルームエアー」や調湿機能を有した「吸放湿クロス」など、部屋の用途に合わせた機能性壁紙の提案ラインナップがあることを紹介された。



ガラスフィルムについては、飛散防止性能による安全性の担保と合わせて遮熱、断熱効果や省エネ率の試算を説明された。

また、ガラスの映り込みを軽減させる低反射フィルム「ルクリア」や型板ガラス、凹凸面への貼付が可能な「フリーフィット」など、用途に応じた商品ラインナップが拡充されていることを紹介された。

その後、見る楽しさ、選ぶ楽しさ、組み合わせる楽しさにあふれるサンゲツ中部支社ショールームを見学。スタイル別にコーディネートされた空間をそれぞれの視点から見学し、多くの事を学んだ。

## 平成30年度 近畿支部定時支部総会開催

近畿支部では、平成31年3月14日(木)、ホテル日航大阪において、定時支部総会を開催した。

はじめに、井上運営委員長より「近畿支部会員63社に対し、出席25社、委任状13社、合計38社をもって総会が成立いたしました」との報告があり、議長に澤田支部長を選出し議題に入った。各議案の説明が行われ、全議案が満場一致で承認された。

総会後には講演会が行われ、引き続いて協会本部をはじめ、関連業界のご来賓ら多数にご臨席いただき懇親会が開催された。ご来賓の方々から木造住宅産業や当協会への励ましのご挨拶、ご祝辞をいただき、活発な情報交換が図られ、盛会のうちに幕を閉じた。



### 総 会

総会は井上運営委員長、五所事務局長による議事進行で開会。近畿支部会員63社に対して会員会社25社(委任状13社)の出席を得て成立が確認された。開会に当たり、近畿支部澤田支部長が挨拶に立った。



#### ●澤田支部長挨拶

昨年は日本各地でさまざまな災害に遭い、近畿地方でも地震、豪雨、台風など大きな災害に見舞われました。こういった大きな災害がいつ起こっても、きちんと対処できるように備えておくことが何よりも大切だと思います。近畿支部では大規模災害発生時において、被災者の生活の早期安定を図るため、各行政機関との間で応急仮設住宅建設の締結に向けて活動しています。昨年5月の和歌山県との締結に続いて、今年2月には大阪府との締結に至りました。また、他の近畿圏の府県につきましても、協会本部の方々と連携して協議を進めてまいりたいと思っております。今年は新たな元号となりますが、新しい元号になっても会員各社様とともに、引き続きさまざまな活動に取り組んでまいりますので、なお一層のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

澤田支部長に続いて、本部より青柳資材・流通部長が挨拶に立った。

#### ●青柳資材・流通部長挨拶

近畿支部の皆様には、平素より木住協の活動にご協力いただきまことにありがとうございます。本日は木住協の活動として4点お話ししたいと思います。1点目は木造応急仮設住宅の建設で、現在大阪府を含め7府県で締結されています。さらに他県とも協議を進めてまいります。2点目は支部の充実ということで、北海道、北陸支部を開設しました。今後も各地域の支部開設を図り、会員サービスを展開してまいります。3点目は省令耐火などの技術開発を図り皆様のお役に立つこと。4点目は木住協HPをさらに見やすくしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。





## ◇議案審議

この後、澤田支部長を議長に選出、議事署名人として大西副支部長、今岡副支部長が選任され議事に入った。各議案は井上運営委員長と五所事務局長によって説明が行われ、いずれも満場一致で承認された。

### 【第1号議案】

平成30年度事業活動報告(案)並びに収支報告書(案)に関する件

### 【第2号議案】

平成31年度支部役員の選任に関する件

## 懇 親 会

総会、講演会の後、会場を移して武田業務・広報委員長の司会により懇親会が開催された。

開会に先立ち今年度より新しく幹事となった会員会社の紹介が行われ、引き続き、(独)住宅金融支援機構近畿支店の末廣地域営業部門長からご祝辞をいただいた。



### ●末廣地域営業部門長様ご祝辞

本日は機構の取り組みについて2点お話しさせていただきます。昨年は非常に災害の多い一年でした。そのため1点目として、被災された皆様に対して復興支援のために大阪府と連携して無利子融資制度を活用した「災害復興住宅融資」を行っています。3月31日までの予定でしたが、要望が多いため1年間の延長を予定しています。2点目は以前から取り組んでおりますリバースモーゲージにさらに力を入れ拡大を図っています。なにとぞ支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

大西副支部長の発声により乾杯、会員相互の親睦を図り、歓談のひとときを過ごした後、今岡副支部長の中締めにより、近畿支部ならびに木造住宅産業のさらなる発展を期して無事お開きとなった。



大西副支部長の発声で乾杯



中締めの挨拶は今岡副支部長

## 平成31年度 事業委員会紹介

### ■資材・技術委員会

委員長 **鳴田 哲也** 住友林業(株)

この度、前年度まで資材・技術委員長を務められました大原委員長の後任を務めることになりました住友林業株式会社の鳴田哲也(なるたてつや)と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

資材・技術委員会では、今年度もこれまでに引き続き、人と地球環境にやさしい「木」を活かした様々な建築物・歴史的建造物の見学に伴う研修を開催してまいります。今後も会員相互の交流・情報共有に貢献できますよう活動していく所存です。引き続きご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。



### ■業務・広報委員会

委員長 **都築 亨昌** LIXIL(株)

この度、前任の武田委員長より業務・広報委員長を引き継がせて頂くことになりました、株式会社LIXILの都築亨昌と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

業務・広報委員会では、「セミナー」「研修見学会」等イベントの企画・実施とあわせ、支部活動・商品技術情報等を本部広報誌『木芽』誌面上にて発信してまいります。これらの活動が支部会員各社様の相互交流と情報交換の場としてお役に立てるよう努力してまいります。皆様方のご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



## ● 講演会 ● 奈良の宮大工の仕事

株式会社瀧川寺社建築

代表取締役社長 瀧川 伸氏

平成31年3月14日(木)、近畿支部定時支部総会に引き続き講演会が行われた。今回は奈良県桜井市の株式会社瀧川寺社建築の代表取締役社長・瀧川 伸氏を講師にお迎えしお話をいただいた。同社は寺社建築のプロ集団で、平城宮跡の朱雀門や法隆寺、長谷寺など数多くの国宝・重要文化財級の木造建築の修復を出がけている。昨年10月に300年ぶりに再建された世界遺産の興福寺中金堂は、「これほど大規模な木造建築は今世紀はもうないだろう」と言われるほどの大事業である。同社代表の瀧川 伸社長に、宮大工の仕事や人材育成、現在の取り組みなどについてお話をいただいた(参加者71名)。

### 瀧川 伸氏 プロフィール

1967年奈良県桜井市生まれ。近畿大学大学院工学研究科建築学専攻修了。一級建築士、一級建築施工管理技士、一級土木施工管理技士、一級管工事施工管理技士取得。

国宝室生寺五重塔保存修理、国宝長谷寺本堂修理、興福寺中金堂復元など170棟以上の修理、建築を手がける。近年、古来からの掘立柱の工法に耐震性と耐久性を飛躍的に向上させる技術を開発し、現在は国内最大級の木造鳥居である橿原神宮の大鳥居の改修工事に取り組んでいる。



### 建造物の墨書から当時の世相が分かる

弊社は伝統的木造建築の復元、設計、施工を主な業務としています。寺や神社などの建造物の維持管理や営繕仕事に力を注いでいます。国宝や重要文化財の修理の際には、私の祖父や曾祖父の名前が墨書に出てきたりします。また長谷寺本堂外舞台の修理の際には、『ソ連宇宙船地球十七周半 核実験再開 世界中テンヤワンの時、日本中が余暇「レジャー」ブームの気風』や『白米壺石三千元 清酒二級金五百円也 木挽賃金千五百円也 大工賃金壺千円也 手伝賃金七百五十円也』など昭和36年当時の世相が書かれた墨書も出てきました。

弊社の主な工事実績は、平成に入ってからとはなんと書いても奈良の大規模木造建築になります。平城宮跡の正門である朱雀門、そして大極殿正殿や興福寺の中金堂

の復元工事。飛鳥時代の建物を模した法隆寺百済観音堂、長谷寺では本堂の倒木による災害復旧工事、20年に一度行っている外舞台修理工事。また室生寺五重塔災害復旧工事、東京椿山荘三重塔解体修理工事、その他、全国各地のお寺の諸堂や神社本殿などの新築工事も行っています。

解体修理工事は、まず着手前に数日かけて①破損調査を行い、②修理設計書を作成し、工事仕様と予算を計上します。着手後は③覆屋をかけ、④部材を解体しながら⑤実施設計を行います。その後⑥旧部材の繕い・補足部材加工、軸組組立、⑦軒と小屋の組立、⑧屋根工事、⑨左官、建具工事、⑩竣工という流れで再構築を行います。

### 普段の宮大工の仕事あれこれ

宮大工の仕事は、テレビで放送されるような寺や神社の新築や解体修理ばかりではありません。お寺や神社の境内には様々な木造のものがあり、下駄箱や簀の子板／古い賽銭箱の修理／仮設札売場の新築／護摩壇の底にキャスター(車輪)を仕込む／寺の納経所窓の改修／照明器具の考案(メーカーのカタログにはないようなもの)／おかもち制作／精霊棚の制作／石碑の実物大シミュレーション／屋形船を神社風に改造／神社本殿の免震工事／床のコゲ直し・傷直し／移動式雨儀廊／室町時代の神輿修理／祭の太鼓台修理／神社の渡り廊下防火隔壁、ジョイント部の雨漏修繕／寺の須弥壇新設などなど、普段のメンテナンスが大



興福寺中金堂立柱式。大径木の柱が立ち並び



切です。

特に雨の日に学ぶことが多く、日頃から境内の環境をよく把握しておく事が大切です。

## 人材育成には「営繕工事」「修理工事」が最適

弊社では、人材育成に関して特に研修などは行っておりません。ただ、人が育つ『環境』をつくる事は大切なことです。日常の業務である営繕工事や修理工事は、先駆者の長所と短所の実例経験を現場で体験することができ、短期間でいろいろな実践ができます。親方から見て人材の技量を計ることができ、若者の人材育成には最適です。

先日テレビである番組を見ていましたら、「社会で役に立つ人の特徴は『解決』と『創造』を身につけている」ということでした。どんなエリート学校でも教えてくれない、実践からしか学べない「問題の解決」と「新しく物を作る力」。この2つが揃った人はなかなかいないそうです。弊社での人材育成では、「営繕工事から小さな問題を解決しながら知恵を出す。人と接して、手と心の感触を実践から学ぶ」ということを重視しています。また、失敗を恐れずに前向きに挑戦する気持ちを持つことが大切だと思います。

## 文化財を守る「掘立柱工法」への取り組み

平成7年の阪神淡路大震災以降の木造建築は大きく変化し、耐震構造として耐力壁をたくさん設けるようになり、その結果、閉鎖的な空間ができるようになりました。

平城宮跡などの遺構から出てくるのは掘立柱で、地面に穴を掘って柱を建てていました。木材は、湿度が30%を超える環境になると急激に腐朽し始めます。それを何とか解消して柱脚を固定できたら、鳥居なども100年以上もつのではないかなというのが私の考えです。

現在取り組んでいる掘立柱工法の特徴は、壁は建物の構造上、平面的にX軸とY軸に配置するため、斜めの方向の力では抵抗値は分散します。曲げ応力に対する断面の性能は直径の3乗に比例する。掘立柱はその足元を完全に固定すると平面上全方向に抵抗できます。私たちが目指しているのは、概ね柱の直径と同じくらい、できるだけ浅く埋めることで固定が可能になれば、奈良のような地下遺構の文化財が多い地域では遺構を傷めず有効な昔の掘立柱を踏襲した復元が可能になるということです。

現在、奈良の橿原神宮大鳥居で、腐らない、そして地下遺構を傷めない「超耐久100年工法」(全方向型耐震掘立柱工法)として取り組んでいます。1000年以上の年輪を持つ貴重な木材を、外部の風雨に晒される環境でも100年以上もたせたいという気持ちで取り組んでいます。

## 「不易流行」の精神で 後世の人たちに恥じない仕事を

今後、この工法の実験と解析を繰り返し行い、日本建築技術センターで構造認定を取得する予定です。現在は、鳥居や門は建築確認申請の必要ない15m以下、10㎡以下の工作物の分野ですが、将来的には建築物にもこの改善された「掘立柱工法」を許容応力度計算が成り立つように

していきたいと考えております。屋根を乗せる事により雨を避け、100年、200年さらにもっと耐久性のある建築物が期待でき、メンテナンスも容易になるのではないかと考えます。

最後に『不易流行』という言葉で締めたいと思います。いつまでも変化しない本質を忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていくこと。この改良された掘立柱がそう

でありますように。昨今、地震や台風などの自然災害や時代の風潮で歴史的建造物に要求されることが多くなってきています。法規制、行政の指導によって構造補強などの規制は文化財建造物にも及んでいます。伝統の技法を守るということは、一方では新しいものを取り入れていきながら、技術革新を繰り返していくことではないかと思っています。宮大工集団として、後世の人たちに恥じない建築を、これからも残していきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。



資材・技術委員会 主催

# びわ湖大津館／蘆花浅水荘／聚心庵 歴史・芸術・商いの心を湖国に訪ねる 第1回商品・技術勉強会

資材・技術委員会では、令和元年5月17日(金)、滋賀県大津市の“湖国の迎賓館”と言われた旧琵琶湖ホテル「びわ湖大津館」、日本画家・山元春拳の別邸「蘆花浅水荘」、さらに滋賀県神崎郡五個荘にある(株)ツカモトコーポレーション初代・塚本定右衛門の旧家で資料館にもなっている「聚心庵」を訪ね、湖国・滋賀県に息づく歴史・芸術・商いの心に触れる研修見学会を行った(参加者20名)。

## びわ湖大津館

### 湖国の迎賓館と言われた「旧琵琶湖ホテル」

旧琵琶湖ホテルは、1934年(昭和9年)に外国人観光客の誘致を目的に建てられた。鉄筋コンクリート造りで地下1階、地上3階、高さ19m。東京の歌舞伎座を手がけた岡田建築事務所の設計。外観は両翼に並列する入母屋造りと、玄関の唐破風を組み合わせた和風の桃山様式。それに対して館内は重厚な洋風建築で和洋がみごとに融合している。ホテル時代には「湖国の迎賓館」として、皇族をはじめヘレン・ケラー、ジョン・ウェイン、川端康成、美空ひばり、勝新太郎など数多くの著名人が訪れている。1998年(平成10年)に琵琶湖ホテルが浜大津に営業移転した後は大津市が大規模な補強・改修工事を行い、2000年(平成12年)に大津市指定有形文化財に登録され、2002年(平成14年)から多目的文化施設「びわ湖大津館」として開館した。



びわ湖大津館(旧琵琶湖ホテル)外観

#### ●両替所の格子

1階フロント横の真鍮でできた格子。かつての国際ホテルとしての面影を伝える貴重なもののひとつ。

#### ●エレベーター

停止階表示などが懐かしく重厚感のある1階ロビー正面のエレベーターは、1957年(昭和32年)に設置された当時のものを補修して再利用している。

#### ●「桃山」謎の小部屋と照明器具

格天井で床が寄木張りの「桃山」は当初食堂として、後にはコンサート会場などとして使用された。欄干のついた小部屋は楽器演奏のために使用されたという説もあるが正確には分かっていない。また、照明器具は改修工事で部品の取り替えや修理を行ったが、建築当時のものである。



琵琶湖が眼前に広がる2階展望テラス



琵琶湖の眺望も楽しめるレストラン



数多くの歴史的な写真・資料を展示



フロント横の両替所の格子



ロビー正面のエレベーター



「桃山」謎の小部屋と照明器具



## 蘆花浅水荘

### 日本画家・山元春挙の数寄屋建築別邸

蘆花浅水荘は日本画家・山元春挙が1921年(大正10年)に大津市中ノ庄に建てた別邸。檜皮葺の表門を入ると、1階は居室、次の間、残月の間、座敷、茶室、竹の間、持仏堂、土蔵などがあり、2階にはアトリエと西洋風応接室などがある。床柱をはじめ竹を多用した「竹の間」や、月を水鉢に映して楽しむ「残月の間」、創建当時は琵琶湖に面していて舟で直接出入りができた庭など、自然を上手に取り入れた独創的な設計が随所に施されている。



蘆花浅水荘外観



趣のある檜皮葺の表門



床柱や丸窓などに竹を用いた「竹の間」



2階の西洋風応接室



天井が高く広々とした2階アトリエ

## 聚心庵

### 近江商人・塚本定右衛門本宅／歴史資料館

天秤棒を担いでの行商から豪商へと成長し、「売り手よし、買い手よし、世間よし」の三方よしの理念で知られる近江商人。近畿支部でもこれまでにいくつか近江商人の館を訪ねたが、大きく分けて発祥順に近江八幡、日野、五個荘の3つがある。今回訪ねた塚本定右衛門宅は五個荘商人で、商家の多くが近代企業に転身して、現在も老舗企業として存続しているのが特徴である。

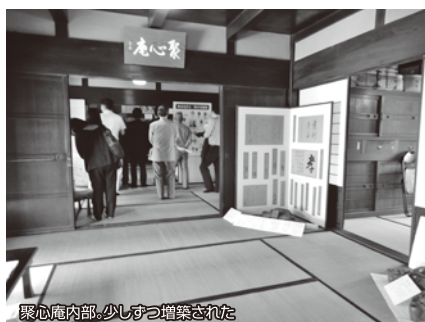
聚心庵は繊維商社ツカモト株式会社(現・株式会社ツカモトコーポレーション)の創業者・初代定右衛門(久蔵)が1827年(文政10年)、38歳の時に建てたもので、文化財として守り伝えるため、同社の創業180周年記念事業として1992年(平成4年)に開庵した。建物は近江商人らしく贅を排した質素なものだが、福沢諭吉、勝海舟などからの書簡をはじめ数多くの貴重な資料が保存・展示されている。



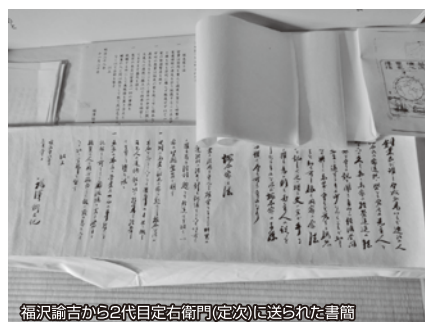
長く美しい白壁が続く門構え



聚心庵外観



聚心庵内部。少しずつ増築された



福沢諭吉から2代目定右衛門(定次)に送られた書簡

## 平成30年度 九州支部の定時支部総会開催

九州支部では、平成31年3月11日(月)17時より、福岡市博多区の八千閣本店において、平成30年度定時支部総会を開催しました。支部運営要領第13条に則り、脇山支部長が議長となり審議に入り、今年度の事業報告および収支報告、来年度の事業計画、収支予算、支部役員の専任に関する各議案の説明がなされた後、全ての議案が満場一致で承認となりました。

平成30年度の事業報告において、木造応急仮設住宅の取り組み、作文コンクール募集活動、安川電機ロボット村およびトヨタ自動車九州宮田工場の視察見学会、住宅税制改正セミナーの開催などの活動報告がなされました。

そのなかで木造応急仮設住宅の取り組みにおいては、



平成30年5月から佐賀県、長崎県、鹿児島県、宮崎県、大分県と協定書締結に向けての協議を開始しました。平成29年度には福岡県、熊本県と協定書を締結しておりますので、この協議開始を起点として九州エリア全ての県との協定書締結を目指し、今後の支部活動の活性化や各県単位での地域社会のお役に立つ活動につなげていきたいと思っています。

総会後には親睦会が行われ、本部からは越海専務理事、和田運営委員長、黒沼事業推進部長、高増特命担当部長(当時)が出席され、九州支部の幹事、および運営委員会、地域活性化委員会などの各委員長・副委員長をはじめ支部会員との活発な情報交換や親睦が図られ、盛会のうちに幕を閉じました。



## 住宅税制改正セミナー開催



九州支部では、令和元年5月20日に「住宅税制改正セミナー(第一部)」および「ライフプランを踏まえた住宅資金計画と最新情報(第二部)」を福岡市で開催し、支部会員34名が参加しました。

第一部は、「住宅と税金(税制ガイドブック)」の著者でお馴染みの木住協顧問税理士の下平先生にお越しいただ

き、今年度の住宅に関連する税制改正の概要と消費税引き上げに伴う住宅取得支援策について、住宅営業担当者向けに分かりやすくご説明いただきました。

第二部は、住宅金融支援機構九州支店 地域営業グループ推進役の岩井田様にお越しいただき、住宅ローン選びのポイントとして、①ライフプランをイメージしながら住宅ローンを選ぶ②返せる額で資金計画を立てる③住宅ローンの金利タイプとリスクを知る—という観点から掘り下げた内容のお話と、フラット35の借入対象となる諸費用の項目が拡大したなどの今年度の改正点をご説明いただきました。

九州支部での住宅税制改正セミナーは前年度に続き第2回目の開催で、今回も専門家から大変貴重なお話も傾聴でき大変好評なセミナーとなりました。



# 平成30年「低層住宅の労災発生状況調査」まとまる

## 足場・脚立などからの墜・転落が4割強を占め、依然深刻な状況 先行足場の設置などが必要に――生産技術委員会

1種A、B、C正会員が昨年1年間に建設した新築工事などで109件の労働災害事故が発生し、このうち足場や脚立などからの墜・転落が4割強を占めたことが、生産技術委員会(秋元正人委員長)がまとめた「平成30年低層住宅の労働災害発生状況調査」結果から判明した。新築工事100棟に対する発生件数は0.21件と前回調査から減少に転じた。内部造作と建て方作業での労災事故が依然として多く、職種別では大工職が62%を占めたほか、年齢別では20歳代と40歳代、50歳代の労災事故が前回調査より増加していた。

この調査は1種A、B、C会員を対象に、昨年1年間の労災事故件数をアンケート方式で調べたもの。102社(1種A会員35社、1種B・C会員67社)が回答を寄せ、木造軸組住宅の新築工事、増改築・リフォーム工事、解体工事で休業日数が4日以上、労災事故に限定して集計した。集計結果によると、回答した102社が昨年1年間に建設した完工棟数は8万9,606戸(件)で、内訳は新築工事が5万1,547戸、増改築・リフォーム工事が2万9,330件、解体工事が8,729件となった。このうちA会員で68件、B・C会員で41件の合計109件の労災事故が発生した。工事種別では新築工事が98件、増改築・リフォーム工事が8件、解体工事が3件だった。

表1		平成 30 年								
		回答社数	完工棟数	%	内訳			災害件数	%	100棟あたり災害件数
					新築件数	リフォーム	解体工事			
規模別	木住協	102	89,606	100.0%	51,547	29,330	8,729	109	100.0%	0.21
	3000 棟以上	6	62,824	70.1%	31,851	23,376	7,597	33	30.3%	0.10
	1000～2999 棟	7	16,100	18.0%	10,734	4,717	649	42	38.5%	0.39
	500～999 棟	4	2,705	3.0%	2,488	150	67	9	8.3%	0.36
	100～499 棟	26	6,198	6.9%	5,142	737	319	20	18.3%	0.39
	50～99 棟	15	1,024	1.1%	805	166	53	1	0.9%	0.12
会員種別	49 棟以下	44	755	0.8%	527	184	44	4	3.7%	0.76
	A 会員	35	69,725	77.8%	33,257	27,998	8,470	68	62.4%	0.20
	B、C 会員	67	19,881	22.2%	18,290	1,332	259	41	37.6%	0.22

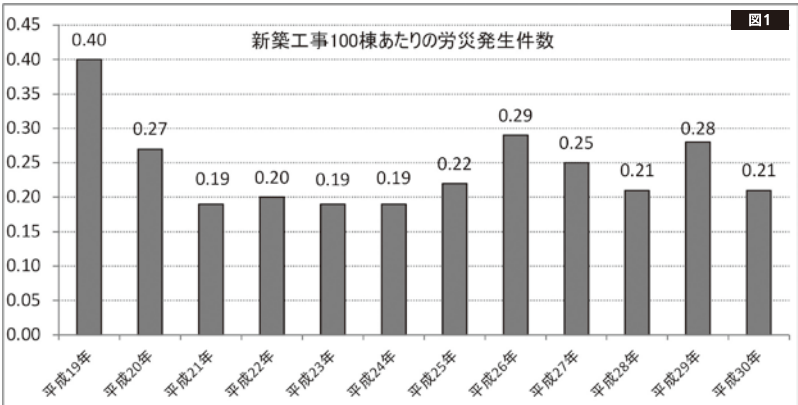
※100 棟あたり災害件数は新築件数との比

### 「内部造作」「建て方」「内装」で6割強占める

100棟あたりの労災事故発生件数(新築戸数に対する発生件数)は0.21件で、建設規模別にみると「年間3000棟以上」の会員(回答会員6社)が0.10件、「1000～2999棟」(7社)が0.39件、「500～999棟」(4社)が

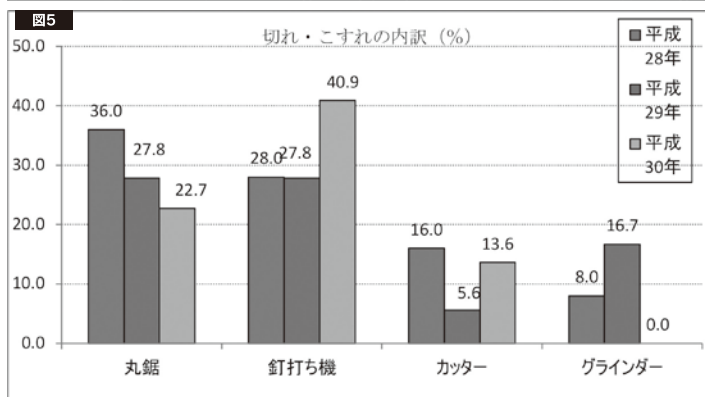
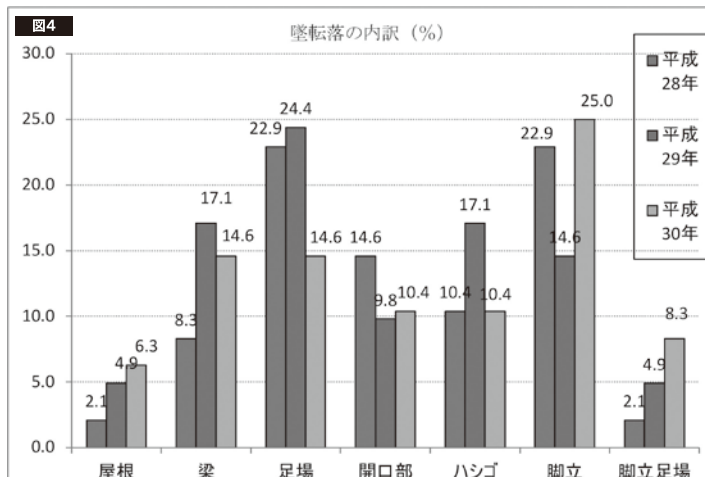
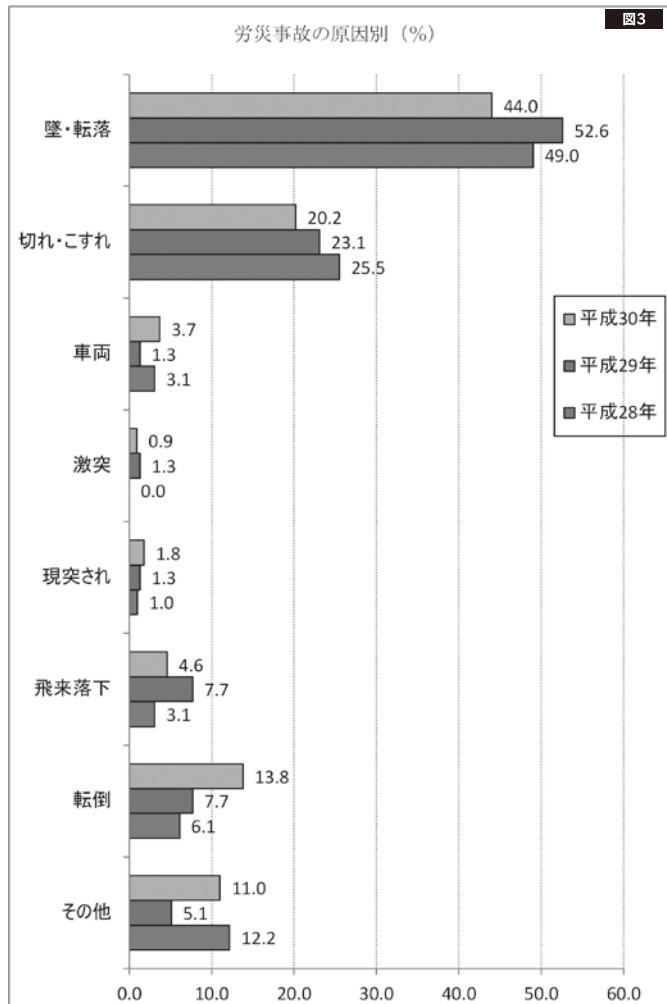
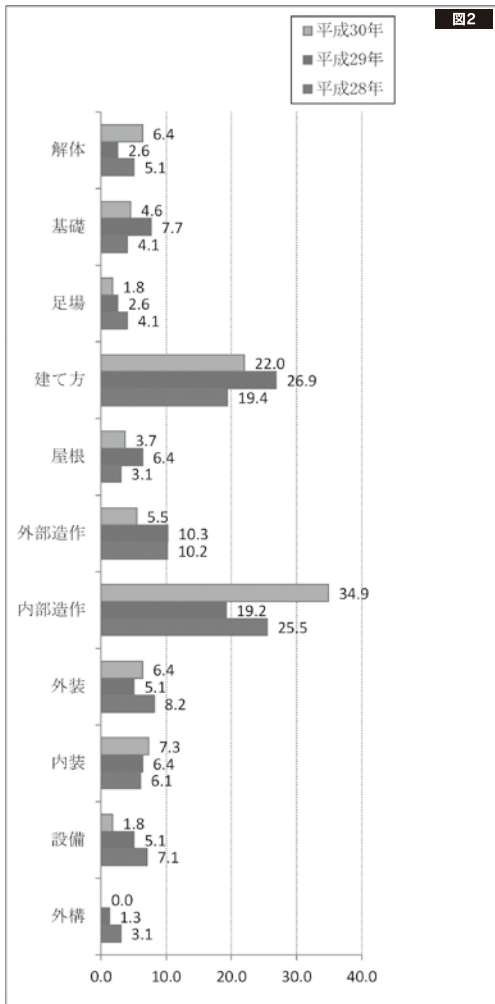
0.36件、「100～499棟」(26社)が0.39件、「50-99棟」(15社)が0.12、「49棟以下」(44社)が0.76件となり、「49棟以下」の会員の労災事故が突出した形となっていた。

＜図-1＞は平成19年以降の新築工事100棟あたりの労災事故発生件数の推移である。平成26年から2年連続で減少に転じたが、平成29年には0.28件に増加。平成30年は再び減少に転じた。



労災発生を作業別でみると、最も多かったのは「内部造作」で38件(全体の34.9%)を占め、次いで「建て方」の24件(22.0%)、「内装」の8件(7.3%)と続き、この3作業で合計70件(64.2%)に達していた。これらに続いて「解体」「外装」「外部造作」「基礎」などが続いていた。

職種別で最も多かったのは木造軸組工法の特徴から「大工職」で68件(62.4%)の労災



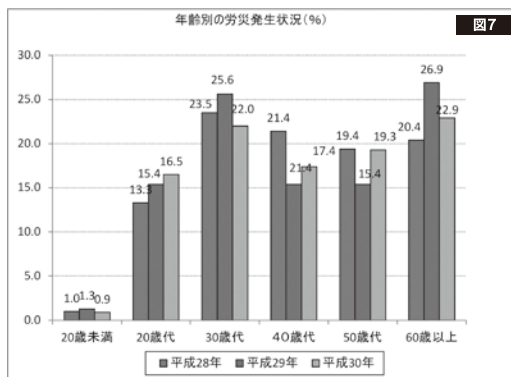
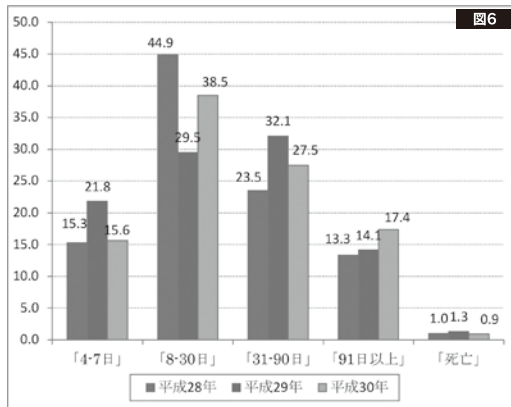
事故が発生した。次いで「クロス」が7件(6.4%)、「解体」と「基礎」の各5件(4.6%)であった。「防蟻」や「瓦工」「防水」「現場監督」などはゼロだった。

労災事故を原因別に分けると、＜図-3＞のように「墜落・転落」が全体の44.0%に相当する48件を占めた。工具による「切れ、こすれ」は22件(20.2%)、「車両系」が4件(3.7%)、「激突」や「激突され」「飛来落下」「転倒」が23件(21.1%)だった。「墜落・転落」と「切れ、こすれ」による労災事故が防止できれば、全体の6割以上を防ぐことができることになる。このほか「挟まれ」や夏場を中心に「熱中症」による労災事故もみられた。

## 墜・転落は「脚立」や「梁」「足場」などから

「墜落・転落」の発生個所で最も多かったのは「脚立」で12件(25.0%)と4分の1を占めた。次いで「梁」と「足場」が各7件(14.6%)、「開口部」「ハシゴ」の各5件(10.4%)などの順となった。前年調査と比べると「足場」と「梁」は減少していたが、「脚立」と「脚立足場」での労災事故が増加していた。「切れ、こ





すれ」では「釘打ち機」の9件(40.9%)が最も多く、「丸鋸」の5件(22.7%)続いていた。

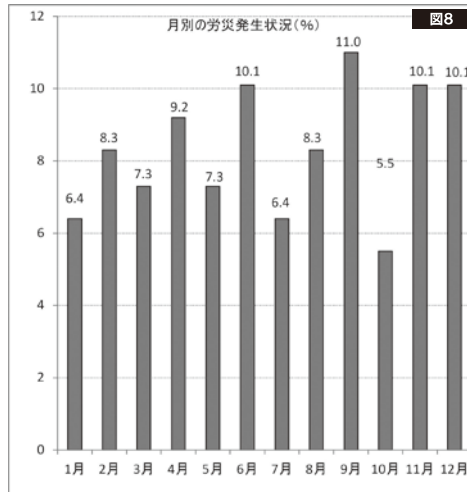
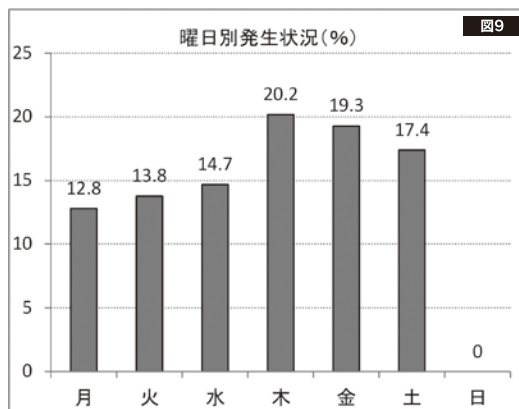
労災事故による休業日数は、「8-30日」が42件(38.5%)と飛び抜けて多く、「31-90日」が30件(27.5%)、「91日以上」19件(17.4%)、「4-7日」17件(15.6%)の順。死亡事故も1件発生していた。死亡事故は11月の水曜日の午後5時台に発生し、60歳以上の大工職が内部造作中に心不全を発症した労災事故だった。

## 木曜日と金曜日の午前中が”魔の時間帯”

被災者の年齢では「60歳以上」が25件(22.9%)と最も多く、「30歳代」の24件(22.0%)、「50歳代」の21件(19.3%)、「40歳代」の19件(17.4%)の順であった。「20歳代」も18件(16.5%)を占めた。「60歳以上」と「30歳代」の働き盛りの労災事故が多くを占め、

「20歳未満」と「30歳代」「60歳以上」を除き、各世代とも前年調査よりも増えていた。

発生月は「9月」が12件(11.0%)と最も多く、「6月」と「11月」「12月」の各11件

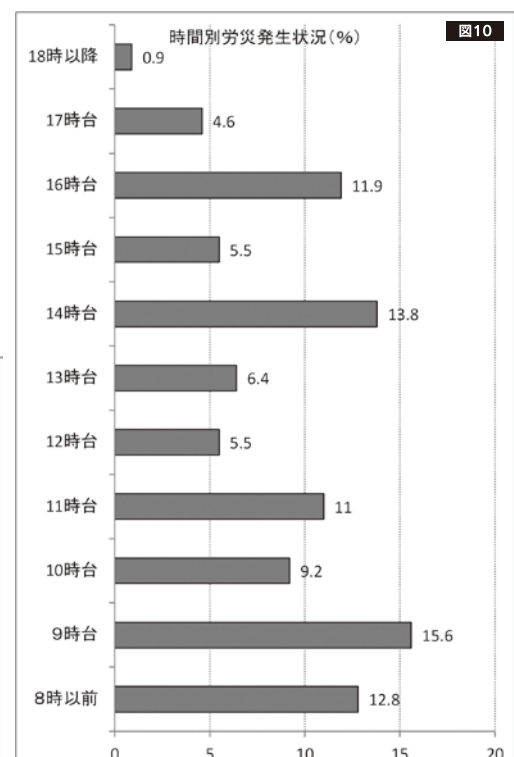


後と午後の休憩前後が顕著となっていた。



労災事故が発生した場合、一番の被害を受けるのは当事者だが、家族や所属企業、お客さまにも多大な迷惑をかけることになる。労災の程度によってはお客さまから物件の買い取りや建て直しを求められることも実際にあり、労災ゼロに向けて会員各社の取り組みが求められている。

労災の半数強を占めた「墜落・転落」を防止するには、①先行足場の設置②作業床と外壁間の墜落防止柵の設置③屋根の親綱設置④安全帯の使用——などの安全策が不可欠になる。工具による「切れ、こすれ」には、①始業前の工具整備と安全確認②安全カバーの使用徹底——などが重要になる。



# 税務談話室

## 工事請負契約に係る 消費税の経過措置

顧問税理士  
(下平税理士事務所所長)  
**下平達夫**



消費税の標準税率が、令和元年10月1日から10%に引き上げられますが、全ての取引について一律に引き上げられるのではなく、契約の実態、対価の支払いの実態及び料金確定手続きの実態等を踏まえて種々の税率に関する経過措置が設けられています。このうち「工事の請負に係る契約に関する経過措置」について、紹介します。

### 1. 消費税率10%までの変遷

消費税の税率は、社会保障の安定財源の確保等を図る目的から平成26年4月より、それまでの5%であった税率が8%に引き上げられました。その後8%から10%に引き上げられることが決定されてから引上げ時期が二度延期され、令和元年10月1日以後に行われる資産の譲渡等から税率10%が適用されることとなりました。

また「飲食料品の譲渡」、「定期購読契約に基づく新聞の譲渡」について消費税の税率を8%とする軽減税率制度が新たに導入され、我が国の消費税の税率も複数税率が適用されることとなりました。

### 2. 新税率の適用時期の原則

令和元年10月1日以後に事業者が行う資産の譲渡、課税仕入れ、保税地域から引き取られる課税貨物について適用されることとなります。

### 3. 工事の請負に係る契約に関する経過措置

令和元年10月1日以後に行われる資産の譲渡については新税率が適用されることから、工事の請負に係る契約に基づく役務の提供についても、その目的物の完成引渡し令和元年10月1日以後に行われる場合には、本来新税率が適用されることとなります。

しかしながら、平成25年10月1日から平成31年3月31日までの間に締結した工事(製造を含む。)の請負契約について、契約が成立し、その対価の額も定められているものについては、契約の日の消費税率が前提となっているものとして、旧税率を適用するとの経過措置が設けられています。平成31年4月1日以後にその契約に係る対価の額が増額された場合には、増額される前の対価の額に相当する部分については、旧税率を適用する経過措置が適用されますが、増額された部分には経過措置が適用されず、消費税率10%が適用されます。

なお、この経過措置の対象となる工事の請負の契約に類するものの具体的な内容は、「測量、地質調査、工事の施工に関する調査、企画、立案及び監理並びに設計、映画の制作、ソフトウェアの開発その他の請負に係る契約(委任その他の請負に類する契約を含む。))で、仕事の完成に長期間を要し、かつ、その仕事の目的物の引渡し一括して行われることとされているもののうちその契約に係る仕事の内容につき相手方の注文が付されているもの(建物の譲渡に係る契約で、その建物の内装若しくは外装又は設備の設置若しくは構造についてのその建物の譲渡を受ける者の注文に応じて建築される建物に係るものを含む。))と規定されています。

#### (1) 工事の請負等及び建物の譲渡に係る契約

請負契約に基づく工事及び製造等については、契約が平成31年3月31日までに締結されており、その契約に基づく課税資産の譲渡等が令和元年10月1日以後に行われるものについては8%の税率が適用されることになり、例えば、建物の建設工事に係る契約を平成31年3月31日までに締結し、その完成引渡し令和元年10月1日以後になる場合には8%の税率が適用されます。

なお、平成31年3月31日までに契約したものについて、経過措置の適用を受けるためには令和元年9月30日までに着工しておかないといけないのか、あるいは、契約の日から着工までに必要以上に期間が開いてはいけないのか等の疑問がありますが、経過措置適用の要件は、①平成31年3月31日までに契約を締結していること、及び②その契約に基づく課税資産の譲渡が令和元年10月1日以後に行われることから、工事着工の日又は契約から着工までの期間等は経過措



置の適用関係には影響しません。

次に、売買契約に基づき建物を取得する場合においても、その建物の内装若しくは外装又は設備の設置若しくは構造についてのその建物の譲渡を受ける者の注文に応じて建築される建物については、平成31年3月31日までに契約し、完成引渡し令和元年10月1日以後になるものは経過措置の適用対象となります。

## (2)国税庁が公表している具体的事例の紹介

### ①地方公共団体の仮契約による契約日の判定

**問)** 当市では、一定金額を超える工事を発注する場合には、予算上の制約等から議会の承認(議決)を得ることとなっています。このため、議会の承認を得る前に入札等により請負業者、請負金額等が決定している場合には、当市と業者との間で、「議会の承認を得た場合に本契約を締結し工事を実施する」旨を定めた仮契約を締結しています。この場合の平成25年10月1日から平成31年3月31日までの間に工事に係る仮契約を締結すれば、仮契約した工事について、工事の請負等の税率等に関する経過措置の適用対象となりますか。

**答)** 照会の仮契約は、議会の承認を得た場合には本契約を締結し、工事を実施することを内容とするものですから、一種の停止条件付請負契約であると考えられます。このような停止条件付契約も「工事の請負に係る契約」に含まれますから、平成25年10月1日から平成31年3月31日までの間に仮契約した工事については、工事の請負等の税率等に関する経過措置の適用対象となります。

### ②建築後に注文を受けて譲渡する建物の取扱い

**問)** 当社では、一戸建ての建売住宅の販売を行っていますが、平成25年10月1日から平成31年3月31日までの間に譲渡契約を締結し、当該住宅について、顧客が内装等に特別な注文を付すことができる場合には、工事の請負等の税率等に関する経過措置が適用されますか。

**答)** 既に建設されている住宅であっても、顧客の注文を受け、内外装の模様替え等をした上で譲渡する契約を締結した場合には、その住宅が新築に係るものであり、かつ、その注文及び譲渡契約の締結が平成25年10月1日から平成31年3月31日までに行われたものであるときは、工事の請負等の税率等に関する経過措置が適用されます。

### ③青田売りマンション

**問)** マンションの販売を行っている当社では、事前にモデルルームを公開して、マンションの完成前に売買契約を締結する、いわゆる青田売りを行う場合があります。この場合、工事の請負等の税率等に関する経過措置が適用されますか。

**答)** 工事の請負等の税率等に関する経過措置の適用対象となる契約には、建物の譲渡に係る契約で、当該建物の内装若しくは外装又は設備の設置若しくは構造についての当該建物の譲渡を受ける者の注文に応じて建築される建物に係るものも含むこととされています。この場合の「注文に応じて」とは、譲渡契約に係る建物について、注文者が壁の色又はドアの形状等について特別な注文を付すことができることとなっているものも含まれます。したがって、マンションの青田売りの場合であっても、壁の色又はドアの形状等について特別な注文を付すことができるマンションについて、平成25年10月1日から平成31年3月31日までの間に譲渡契約を締結した場合には、この経過措置が適用されます。



# 第22回作文コンクールの 応募要領まとまる

小学校などの児童を対象に、「木のある暮らし」の作品募集を開始

(一社)日本木造住宅産業協会は、今年度も小学生などの児童を対象にした作文コンクールを開催いたします。前年度に続いて国土交通省をはじめとして文部科学省、農林水産省、環境省、外務省、住宅金融支援機構、朝日学生新聞社などから後援をいただきました。このほど、22回目となる今年度の作文コンクールの応募要領がまとまりました。会員企業の皆さまには、自社の店頭やモデルハウス内に開催告知ポスター類を掲示し、来場者や見込み客の児童たちに作文コンクールへの応募をお願いしてください。

## 応募の締め切りは9月6日(当日消印有効)

木住協では毎年10月18日を「木造住宅の日」と定めており、10月の住生活月間の記念行事の一環として作文コンクールを実施しています。この作文コンクールは、児童や父兄の皆さまに木造住宅の良さや地球環境保全の大切さなどを理解していただき、あわせて木造軸組工法住宅などの普及・促進を目的に開催するものです。毎回、多くの作品が寄せられ、前年度の作文コンクールでは海外4カ国の日本人学校を含め、1万882作品にも達しました。応募作品の多さなどから、住宅業界だけでなく教育機関からも高い評価を得ており、国内有数の作文コンクールに成長しています。

第22回の作文コンクールは9月6日(金曜日、当日消印有効)に締め切り、厳正な審査を経て10月26日(土曜日)に東京・文京区の(独)住宅金融支援機構本店「すまい・るホール」で、受賞者とご家族の皆さまをお呼びして、表彰式を開催することにしています。応募は小学校に限らず学童支援学校や病院内学校の児童の皆さんからの応募も受け付けます。低学年の部(小学1年生から3年生ならびにこれに準ずる学年・年齢)と高学年の部(小学4年生から6年生ならびにこれに準ずる学年・年齢)に分け、文字数はそれぞれ1200字以内としています。

応募作品は原稿用紙に本人が手書きで書いていただき、原則として小学校などを通じて応募することとしております。作品は未発表のものに限り、受賞作品の著作権は主催者に帰属します。

住んでみたい夢いっぱいの「木の家」、人や地球環境に優しい「木の校舎」「木の駅」などを、子供らしい感性で自由自在に発想してくれる作品を求めます。

低学年、高学年とも国土交通大臣賞や外務大臣賞、文部科学大臣賞、農林水産大臣賞、環境大臣賞、住宅金融支援機

構理事長賞、日本木造住宅産業協会会長賞を設けております。このほか朝日小学生新聞賞や審査員特別賞、木住協ブロック賞、佳作、最優秀団体賞、優秀団体賞も表彰いたします。各受賞者には賞状と副賞(図書カード)を進呈し、応募者全員に参加賞として「かわくと木になるエコねんど」をプレゼントいたします。この「かわくと木になるエコねんど」で小物入れを作っていただき、出来栄を競う作品コンテストも実施します。

## 支部、会員の皆様には告知ポスターの掲示を

審査員はイラストレーターのはせがわゆうじ氏のほか南雲ゆりか氏(南雲国語教室主宰)、遠山明氏(国土交通省住宅局木造住宅振興室長)、山崎徳仁氏(住宅金融支援機構地域支援部技術統括室長)、今野公美子氏(朝日学生新聞社広報・教育メセナ部部長代理)、越海興一(木住協専務理事)の6氏を予定しており、厳正に審査をいたします。審査結果や受賞者は10月下旬に木住協ホームページと朝日小学生新聞紙上で公表いたします。

今回の作文コンクールでは、児童や父兄の方々に木造軸組住宅などの良さをアピールしていきたいと考えています。作文コンクールに関する問い合わせは、作文コンクール事務局

☎03-5114-3015、

E-mail: [contactmail@mokujukyo.or.jp](mailto:contactmail@mokujukyo.or.jp)

までお願いいたします。





## 10月12日、13日に「スーパーハウジングフェアin東京」 住生活月間にあわせて開催へ

「ずっと愛される住まいのレシピー家に価値あり！  
家族と未来のための”住まいの性能”」をテーマに

毎年の住生活月間に合わせて行われる住生活月間中央イベントの「スーパーハウジングフェアin東京」が、10月12日(土)と13(日)の両日、東京都江東区にある東京ガス㈱の企業館「がすてなーに」(江東区豊洲6-1-1)で開催されることになった。「スーパーハウジングフェアin東京」のほか、住生活月間中にホームページ「住宅・すまいWeb」による情報発信や住生活に関する啓発事業など多彩な催しを開催することで、最先端の住生活を啓発することになっている。

このスーパーハウジングフェアなどは、住生活月間実行委員会と住生活月間中央イベント実行委員会が主催する国内最大級規模の住宅関連イベント(国土交通省のほか住宅金融支援機構、都市再生機構などが後援予定)。平成元年に制定された毎年10月の「住生活月間」に合わせ、国民の皆さんに住情報や住環境に関する知識や理解を深めていただくことを目的として、同年に第1回ハウジングフェアが東京・汐留で開催され、今回で31回目の開催となる。

### 各地で住フォーラムや シンポジウムも開催へ

今年の「スーパーハウジングフェアin東京」は、「ずっと愛される住まいのレシピー家に価値あり！家族と未来のための”住まいの性能”」を基本テーマに、高円宮妃久子殿下をご来賓としてお招きして、テープカットセレモニー(12日)やテーマ展示会(12日～13日)を開催する。

12日の午後からは合同記念式典(住生活月間功労者表彰、第15回家やまの絵本コンクール表彰式な

ど)を、東京都港区の東京プリンスホテル「プロビデンスホール」で実施する予定。合同記念式典は招待客のみが対象で、展示会は入場無料となっている。

情報発信事業では、①高齢社会とすまい・まち②まちなみとすまい③環境とすまい・まち④ライフスタイルとす



昨年の宇都宮市内でのテープカットセレモニー

まい・まち⑤教育とすまい・まち——をテーマに立体シンポジウムを「住宅・すまいWeb」を通じて発信し、中央イベントの催事なども情報発信する。

住生活の啓発事業では全国の住宅展示場で一斉に情報発信や普及啓発イベントを開催する。全国共通のPRツール類を作成して見込み客などの来場促進を図り、来場者には住宅の参考情報を記載した小冊子をプレゼントする。このほか東京都で消費者・事業者向けのセミナー、シンポジウムも開催することになっている。木住協が実施する小学生などの児童を対象にした作文コンクールも、住生活月間の関連行事の一環として開催されることになっている。

昨年の「スーパーハウジングフェアin栃木」は、栃木県宇都宮市で開催され約6万2,000人の来場者でにぎわった。ホームページへの訪問者も約167万人に達し、全国の137会場の住宅展示場でもキャンペーン活動が行われた。



会場内を視察して出展者の高校生を激励する高円宮妃久子殿下

## 新支部長登場

東北支部と北陸支部の支部長が交代し、東北支部長に大橋正利・住友林業(株)住宅・建築事業本部仙台支店長が、北陸支部長には伊勢田正児・大建工業(株)執行役員住機製品事業部長がそれぞれ就任した。木住協では令和元年度の重要事項として、「本部支部の連携強化・充実などを通じ、協会活動の活性化を図り、会員サービスの向上を目指す」ことを掲げており、活躍が期待されている両支部長に抱負などを語ってもらった。

### 宮城県などと早急に 木造応急仮設住宅の 協定を



東北支部長に就任した 大橋 正利(おおはし まさとし)氏

「寒冷地が大半をしめる東北には、やはり木の持つ特性の訴求が求められます。木が持つ温もり、環境配慮を営業職時代の経験を生かし、積極的に推奨していきます」と三重県に家族を残し、7年目の単身生活を送っている大橋正利・東北支部長(54歳)は、三重県四日市市の出身。愛知大学を卒業後、商社と不動産企業を経て平成5年に住友林業に入社した。今年4月1日付けで住宅・

建築事業本部の信州支店長から仙台支店長に赴任すると同時に、新支部長のバトンを引き継いだ。

営業畑一筋に歩み、業界活動は今回が初めてだが、「会員増強が東北支部の重要な課題と考えています。まず木住協がどのような活動を行っているのか、今後も注目される木材利用を自治体や多業種の企業に知って頂く活動も必要です」と語り出した大橋支部長、舵取り役として支部の近未来を描いているようだ。

3.11は遠く三重の支店で商談同席中だった。「これはただ事ではない」と瞬時に感じたという。「東日本大震災の被災地に個人として、直接的に貢献することができていなかったで、何とかお手伝いを」「地元自治体との木造応急仮設住宅建設の協定では山形県としか締結していませんが、残る宮城県をはじめとする5県とも締結を実現できるよう活動していきます」と語った。

### 会員と幅広く意見交換し 多彩な支部活動展開



北陸支部長に就任した 伊勢田 正児(いせだ まさる)氏

「北陸支部は設立2年目を迎える若い支部です。木造住宅と木造建築物の普及を目指して、支部会員の皆さんと交流を深めながら幅広く意見交換を行い、有意義な支部となるよう多彩な活動を展開します」と切り出した伊勢田正児・北陸支部長(57歳)。木造応急仮設住宅の建設に関する自治体との協定については、「北陸3県はまだ未締結で、既に実績のある支部の情報をいただきながら、早急に締結に向けてステップアップをします」と抱負を語る。

出身は富山県高岡市。信州大学から新卒で大建工業に入社した。開発・技術畑などを歩み、中国での生産工場の総経理も務めた。東日本大震災の直後に大きな余震が続く福島・会津若松に赴任したこともあるが、13年間に及んだ単身生活を終えて、今は高岡市の実家で実母と愛妻の3人で暮らす。

住機製品事業部長として、「大工職の高齢化や若年入職者の不足も想定され、そのため省施工の製品開発を行い、今後の住宅業界や世の中に少しでも貢献を」というのがビジネスでの願いという。現職の前は4年間にわたる岡山勤務で、「昨年の西日本豪雨で大きな被害を被った真備町にも近く、異常気象が日常化していることを実感しました。北陸支部として大雨被害などに対する体制作りも必要です」と強調する。

『一念 岩をも通す』が座右の銘。「自分を奮い立たせるための言葉です」と説明する伊勢田・支部長に、北陸支部の発展に向けた意志の強さを見たような気がした。



## 新部長登場

木住協・本部の特命担当部長と業務・広報部長がこのほど交代し、新たに住友林業(株)から出向した高木恒明氏(57歳)が特命担当部長に、大建工業(株)出身の森剛二氏(53歳)が業務・広報部長にそれぞれ就任した。木造応急仮設住宅の建設で都道府県との協定締結、作文コンクールの開催、情報発信などを担当するなど、両部は木住協の重要な部署。新任の2人に抱負などを聞いた

### 木造応急仮設住宅の 対応マニュアルを充実



特命担当部長に就任した 高木 恒明(たかぎ つねあき)氏

「南海トラフ地震が危惧され、集中豪雨などの災害も多発するなど、有事に備えて全国の都道府県との間で木造応急仮設住宅建設の協定締結を急ぎます。同時に万一、災害が発生した場合の具体的な対応マニュアルを充実します」と抱負を語り出した高木・特命担当部長。4月の就任直後から岐阜や徳島、高知、香川県で協定締結し、未締結の自治体を訪れる東奔西走の毎日だ。

県庁での協定締結式では会場の準備や設え、終了後の備品の返送作業と力仕事が続く。協定に調印する知事と

市川会長らを傍で見守る高木・部長は、まさに縁の下の力持ちといった存在。前任者から引き継ぎ、漸く4分の1の府県と締結したが、「最終的に全国47都道府県と締結を急ぎます」と力が入る。

1986(昭和61)年に東京理科大を卒業し、新卒で当時の住友林業ホームに入社。千葉支店を振り出しに現場監理や設計業務、CAD導入の推進、工務店支援など一貫して技術畑を歩んできた。直前は資材開発部で品質管理や部材の調達を担当していた。

木住協への出向は今年3月上旬に突然告げられた。木住協の委員会活動の手伝いなどを行ったことはあるが、職員としての勤務は今回が初めて。「最初は戸惑いましたが、微力ながら木造住宅業界の発展に寄与できれば」と熱っぽく語る。

健康に気を付け、「山登りが趣味で毎年、夏休みに連泊して長野や山梨の山を縦走しています」と目を細めた。新潟市出身。

### 会員の皆さんに有益な 情報の発信を第一に



業務・広報部長に就任した 森 剛二(もり こうじ)氏

1988(昭和63)年に関西大学を卒業して大建工業に入社し、建材販売の営業に携わって30年。三重、熊本、広島、大阪、富山、金沢と西日本で活躍し、「東日本で従事するのは今回が初めて」と森・部長。就任前は北陸支店金沢営業所の公共商業施設市場担当リーダーを務め、県産材を使って主に非住宅の内装木質化に取り組んできた。県産材の床材・壁材を10数件、公共物件に採用してもらったことが自慢だという。

「木造住宅のことを知っているつもりでしたが、就任

して回りの人たちと比べまったく分かっていないことに気付きました。自主統計の集計や作文コンクールの準備など、今までの仕事と全然違い戸惑いもありますが、しっかり仕事を覚えていきます」「木住協の重要な部署を任されることになり、会員の皆さまには企業経営に役立つ多くの情報発信を、外部やマスコミには木住協のさまざまな活動や事業を正確に発信していきます。木住協の露出度アップを目指します」と語る。その上で、「個人としては木に関するスペシャリストを目指します」と意欲を見せる。

営業時代は車通勤の毎日だったためか、赴任して「人の多さと毎朝の満員電車で驚きました」。家族を三重県津市に残し、単身生活は13年目に入り「自炊は慣れたもの」と笑みがこぼれる。

休日は健康を考えて、できる限り歩くことを心掛けている。父親の転勤によって子供時代を広島で過ごし、「それ以来、カーブ・ファン一筋です」と二度目の笑みがこぼれた。大阪・高槻市出身。

# 新規会員紹介

4月から6月までに入会されました企業を紹介します。みなさん、よろしくお願いします。

## エース・トゥワン・グループ(株)

2種B正会員

代表取締役 峰尾 泰宏

自動消火装置のパイオニア、50年の実績と「ケスジャン」の名称で大手ハウスメーカー様にご採用頂いております。

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-7-13

TEL: 03-3221-8721 FAX: 03-3221-9722

<http://www.ace21group.com>

## (株)エコラボ・ホーム

1種C正会員

代表取締役 和田 健児

将来の環境の事や住宅にかかる費用の負担が軽くなり、豊かな生活が送れるよう取り組んでいます。

〒861-4202 熊本県熊本市南區城南町宮地2185-1

TEL: 0964-27-4607 FAX: 0964-27-4608

<http://www.eco-labhome.com>

## (一財)大阪住宅センター

賛助会員

理事長 横小路 敏弘

当センターは、住宅展示場「花博記念公園ハウジングガーデン」の運営と、住宅性能評価及び住宅瑕疵担保保険を取り扱っています。

〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場4-4-3

心斎橋東急ビル4階

TEL: 06-6253-0071 FAX: 06-6253-0145

<http://www.osaka-jutaku.or.jp>

## (有)オリジナルハウス

1種C正会員

代表取締役 赤尾 茂

地域密着の地場工務店。高性能・自由設計の家を適正価格でお届け。世界に1つだけのオリジナルな家づくりをご提供しております。

〒426-0005 静岡県藤枝市水守1-11-5

TEL: 054-643-0243 FAX: 054-646-7132

<http://www.original-h.com>

## カメイ(株)

2種A正会員

代表取締役社長 亀井 文行

仙台市を拠点とした総合商社。主に石油製品を中心に、住宅設備機器、食料品、薬局など幅広い事業を展開しております。

〒980-8583 宮城県仙台市青葉区国分町3-1-18

TEL: 022-264-6111 FAX: 022-264-6020

<http://www.kamei.co.jp>

## 関西電力(株)

2種A正会員

理事 営業本部 副本部長 有吉 猛

エネルギーをより上手に使い、安心・快適・便利な暮らしを実現する「オール電化住宅」をご提案しています。

〒530-8270 大阪府大阪市北区中之島3-6-16

TEL: 06-6441-8821

<http://kepco.jp>

## (株)クリエイト・ライフ

1種B正会員

代表取締役 清家 美紀

RC・鉄骨ではなく木造の良さを知って頂く為に、主に木造の個人住宅・共同住宅で営業展開しております。

〒811-1355 福岡県福岡市南区松原2-64-11-1階

TEL: 092-564-3338 FAX: 092-564-3339

## (株)クワザワ

2種A正会員

代表取締役社長 桑澤 嘉英

北海道を拠点に住環境の明日を創造する、住宅、建設資材の総合商社

〒003-8560 北海道札幌市白石区中央2条7-1-1

TEL: 011-864-1111 FAX: 011-862-0522

<http://www.kuwazawa.co.jp>

## (株)国分建設

1種B正会員

代表取締役 辻 英智

木造注文住宅・リフォームの設計・施工を行っております。喜びや感動を共に味わえるような家づくりを心がけ、お客様と一緒に夢をカタチにしています。

〒300-1237 茨城県牛久市田宮2-27-3

TEL: 029-873-1611 FAX: 029-873-4233

<http://www.kokubun-kensetsu.jp>

## 越井木材工業(株)

2種A正会員

代表取締役社長 越井 潤

木材に耐久性、防火性能を付与し、日本の森林再生に寄与する。

〒559-0026 大阪府大阪市住之江区平林北1-2-158

TEL: 06-6685-2061 FAX: 06-6685-8778

<http://www.koshii.co.jp>



## (株)太平流通販売

1種B正会員

代表取締役 渡邊 剛久

「暖かい家をデザインする」をコンセプトに機能性とデザインにこだわった家造りを提案しています。

〒007-0834 北海道札幌市東区北34条東4-3-1

TEL: 011-788-9590 FAX: 011-788-9591

<https://taihei-ryutsu.jp/asca/>

## (株)トーコー

2種B正会員

代表取締役 西田 敏典

カITEキをカタチに。私達は心地よい住まいを創出する、住宅建材メーカーです。主力商品は「棟換気」。

〒630-0142 奈良県生駒市北田原町1208-6

TEL: 0743-71-0151 FAX: 0743-71-0551

<http://www.metal-toko.co.jp/>

## 日本ビルダー支援機構(株)

賛助会員

代表取締役 和田 信雄

一戸建て新築住宅を供給する工務店向けに、引き渡し後から2年間のメンテナンス費用を1回最大10万円分補償する「お家メンテナンス保証」のサービスを提供している。

〒370-0011 群馬県高崎市京目町249-1

オフィスインター203

TEL: 027-386-3348 FAX: 027-386-6668

<http://j-b-s.jp>

## (株)ハウゼコ

2種B正会員

代表取締役 神戸 睦史

住宅用換気・通気部材のメーカーとして国や大学との共同研究等を行い、広く社会に貢献する会社づくりを目指します。

〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場2-10-28

NKビル6階

TEL: 06-4963-8266 FAX: 06-4963-8267

<http://hauseco.jp>

## 芳賀建工

賛助会員

代表 芳賀 義和

地元に根差した工務店を目指して、地域の人たちの暮らしを守る地元工務店でありたいと思っています。

〒441-8087 愛知県豊橋市牟呂町字東明治郷下93-1

TEL: 0532-33-1464 FAX: 0532-33-1553

<http://www.hagakenkou.com>

## 学校法人富嶽学園 日本建築専門学校

賛助会員

理事長 杉浦 重光

日本の伝統的木造建築技術を基に、現代技術と日本文化の精神を取り入れた特色ある教育を実践しています。

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出2730-5

TEL: 0544-54-1541 FAX: 0544-54-1405

<http://www.nihonkenchiku.ac.jp>

## 文化シャッター(株)

2種A正会員

執行役員 商品開発部長 石倉 則夫

当社は各種シャッター、ビル用建材、住宅用建材を製造・販売する総合建材メーカーとしてお客様の快適環境を創造します。

〒113-8535 東京都文京区西片1-17-3

TEL: 03-5844-7200 FAX: 03-5844-7201

<http://www.bunka-s.co.jp/>

## (有)結城建設

1種C正会員

代表取締役 圓光 昌平

兵庫県南西部を中心に活動しています。長期優良住宅・ZEH等 補助金活用を積極的に取り組んでいます。

〒678-0202 兵庫県赤穂市山手町8-27

TEL: 0791-46-3011 FAX: 0791-46-3012

<http://yuuki-kensetu.co.jp/>

## (株)脇山工務店

1種C正会員

代表取締役 脇山 哲男

安心と信頼のある家づくりを提供する

〒359-1133 埼玉県所沢市大字荒幡146-4

TEL: 04-2941-4178 FAX: 04-2941-4179





〈岡山県備前市〉

## 旧閑谷学校講堂

岡山県備前市の人里離れた谷間に忽然と現れる厳かな木造建造物群……。これが旧閑谷学校である。江戸時代前期に岡山藩主 池田光政の命によって開かれた日本最古の庶民のための公立学校で、350年余にわたってその姿を変えることなく、郷里の人々によって静かにに守り続けられている。国宝の講堂をはじめ、小斎・飲室・文庫・聖廟・閑谷神社・石堀など24棟が国の重要文化財に指定されており、江戸時代の学校建築としては、最も古く、しかも最も整った遺構である。

とりわけ、この中心的建物である講堂は、十本の樺の丸柱で支えた内室とその四方を囲む入側とで構成され、その周囲に広い庇をめぐらし、縁を設けている。建物は入母屋造り、屋根は創建当時茅葺きであったが、その後に改築されて堅牢な備前焼瓦に葺き替えられている。儒教の講義が行われた広い板間は、拭き漆の床がよく磨かれており、火灯窓から入る光をやわらかく反射させて、厳肅な雰囲気を出している。

この建物を造営したのは、岡山藩きっての英才で、建築・土木事業においても天才的技術者であった津田永忠である。彼は、若き藩政家として、財政の立て直し、領民救済、殖産興業に尽力したことで知られる。そして、主君である光政が隠居した後は閑谷に居を構えて、30余年の長い歳月を費やして、独創的な工夫と丹精込めた造作を凝らしたこの学問所を完成させた。武士のみならず農工商の子弟も学ぶことのできるこの「庶民教育の殿堂」は、地元・岡山の経済と文化に貢献した多くの人材を輩出している。質素で簡略でありながら壮大にして精緻……。旧閑谷学校講堂は、まさに津田永忠の儒教精神そのものの偉大なる教育遺産である。

### 旧閑谷学校講堂 国宝

建 築 元禄14(1701)年  
所 在 地 〒705-0036 岡山県備前市閑谷784  
電 話 0869-67-1436  
公開時間 9時～17時  
休 業 日 12月29日～31日  
所有管理 備前市

<http://www.mokujukyo.or.jp>



一般社団法人

日本木造住宅産業協会



木 芽 2019年7月12日発行

Vol.172

発行人 越海 興一 編集 業務・広報部  
〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 全特六本木ビル WEST棟2階  
電 話 03(5114)3010(代) FAX 03(5114)3020